

月 報

国立国会図書館



次の時代に向けて 国際子ども図書館リニューアル
アーチ棟のできるまで 国際子ども図書館拡充整備事業について

放送開始 90 年記念 脚本アーカイブズ・シンポジウム
「脚本アーカイブズ」の新たなステップへー未来に向けた保存と利用

2015.8/9
No.
652/653

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00 後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。			

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30		★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	※1階子どものへや、世界を知るへや、3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。		
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求受付	火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30		

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

02 小川琢治コレクション ノーベル賞学者の父の収集人生

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

04 次の時代に向けて 国際子ども図書館リニューアル

14 アーチ棟のできるまで 国際子ども図書館拡充整備事業について

20 放送開始90年記念 脚本アーカイブズ・シンポジウム

「脚本アーカイブズ」の新たなステップへー未来に向けた保存と利用

24 What's 書誌調整 ふたたび 第2回 目録規則は進化する

27 館内スコープ

図書館に行かなくても文献を入手できます 国立国会図書館の遠隔複写サービス

28 TOPIC

- 空襲のあった時代を物語る資料
米国戦略爆撃調査団文書のデジタルコレクションへの追加が完了しました
- 国立国会図書館サーチのこれから
「国立国会図書館サーチ連携拡張に係る実施計画」のご紹介

32 本屋にない本

- 「アートが絵本と出会うとき 美術のパイオニアたちの試み avant-garde and children」

33 NDL NEWS

- 法規の制定

34 お知らせ

- 本の万華鏡（第19回）「白瀬矗、南極へ～日本人初の極地探検」
- 関西館小展示（第18回）「古今東西いきもの絵巻ーいる、いない、もういないー」
- 国際子ども図書館展示会「世界をつなぐ子どもの本ー2014年国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト図書展」
- 国際子ども図書館講演会「＜児童文学史＞をもとめて一展示会「日本の子どもの文学」の5年間でふりかえる」
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

小川琢治コレクション ノーベル賞学者の父の収集人生

藤元 直樹



小川琢治 肖像
『小如舟書屋蔵書目録』
口絵より



『小如舟書屋蔵書目録』
小川博士古稀慶賀会
編・刊、1939
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1229235>

和漢書目録 26-58コマ
・漢籍部
・和書部
[洋書目録] 83-59コマ
・Geography
・Natural History
・History
・Literature
・Humboldt Collection

今日、小川琢治（1870-1941）は、日本初のノーベル賞受賞学者湯川秀樹の父として知られているといつてよいだろう。小川家は、湯川家の養子となった三男秀樹の上に、冶金学者小川芳樹、東洋史の貝塚茂樹、下に中国文学者小川環樹と各界の大家を輩出した名家である。当然、父親の琢治も彼らに輪をかけた大学者である。湯川が「父の専門は地質と地理とであつたが、その研究癖は考古学、支那学から書画、刀剣、囲碁にまでも及んでゐたので、書斎や蔵はいふに及ばず、居間から玄関まで色々な種類の書物が雑然と並べられ」（『半生を回顧して』『科学朝日』1942年1月号）と記したように、和漢洋の書物に通じた碩学であつた。

収集の様子は、如舟老人名義で雑誌『科学ペン』に連載した記事「古本道楽」（1936年11月、12月、1937年4月号に掲載）にその一端が見える。

そして薫陶を受けた弟子達が、古稀を迎えた小川を祝うために編纂刊行したのが、コレクション中の逸品の書誌を取りまとめた『小如舟書屋蔵書目録』（1939年）である。

その僅か2年後の1941年11月15日、小川は没する。小川家の長兄芳樹が、その蔵書の行く先について腐心することになったと思しい。

琢治の奉職先であつた京都大学がまず引き受け先の候補となつたと思われるが、結局のところ同大学には小川文庫といったまとまつたコレクションは形成されていない。『小如舟書屋蔵書目録』に「Kept in the Geographical Museum, Kyoto Imperial University」と注記を付して記録されていた、地球儀と2点の海図は、1942年に小川家より京都大学へ寄贈さ

れ、今日京都大学総合博物館に伝わっている。小川は京都大学の資料収集に大きく関わっており、直接の旧蔵書以外の広い意味での小川関連資料も膨大に残されていると推測されるが、今のところその全貌は不明である。

国立国会図書館の前身である帝国図書館は、1943年、『小如舟書屋蔵書目録』に掲載された、文学書とフンボルト・コレクション以外の洋書を中心に80点を購入した。これには目録未掲載の12点が含まれる一方で、逆に既に図書館の蔵書としてあつたものや、その異版として選ばれなかつたものもあつたようだ。

小川家に残された書物も幾つかあつたと思われ、目録にあつた *Cosmographia Petri Apiani* が湯川秀樹の手許におかれ、後年京都大学に寄贈されたのはその一例である。

こうして小川琢治旧蔵書は、帝国図書館の特別コレクションとして特4-1～80の請求記号を与えられることになった。

他に小汀^{おばまとしえ}利得と三井文庫が蔵書を購入したことが知られるが、前者は没後に、後者は終戦直後の混乱期に売却されており、当館の「特4」のコレクションは、国内でまとまつた形で、その蔵書が残された珍しい例といえるだろう。

なお、特4-48以降の番号をふられた書物は、後年、特別コレクションではなく普通書扱いとして再整理され、請求記号も改められた。現在は、一般書と混じつて排架され、小川旧蔵書ということが判別できなくなっている。残念なようだが、小川が蔵書印や署名を残していないことからすれば、逆に本人の意になつているのかもしれない。

（ふじもと なおき

調査及び立法考査局調査企画課）

参考：『小川コレクション』
『国立国会図書館百科』
出版ニュース社、1988、
p.330



Descriptio regni Iaponie : cum quibusdam affinis materiae, ex variis auctoribus collecta et in ordinem redacta / per Bernhardum Varenum Med. D.
Amstelodami : apud Ludovicum Elzevirium, 1649
<請求記号 特 4-1>
※古典籍資料室所管



Philippi Cluverii Introductionis in universam geographiam tam veterem quam novam libri VI / Tabulis æneis illustrati. Accessit P. Bertii Breviarium orbis terrarum.
Amstelædami : apud Henr. Wetstenium, 1686
<請求記号 特 4-4>
※古典籍資料室所管

「古本道楽」『科学ペン』
1936年11月号より
※東京本館において、マイクロフィッシュでの閲覧となります。
<請求記号 YA5-1227>



今春東京古本屋が連合して京都大丸百貨店の六階で即売会を開いた折りに、久しく念頭に在ったベルンハルド・フアーレンB.Vareniusの拉丁日本国誌一六四九年、アムステルダム版を目録で探し当てたが、番頭が如何に骨を折つて呉れても見つからずに了つた。然るに最近某書店欧文古書目録に出て来たので手に入つた時の気持ちは、永く忘れられまいと思ふ。(中略) 日本に関するものであつたので、何時か輸入されてゐたのが手に入つたのであつた。(pp.69-70)

斯うした稀観書の容易に獲られた味は、それは廉価でも後を引く危険のあるもので(中略) 巻頭の銅版面に飾られた題屏や古い蔵書家の蔵書票などにも趣味を感じフィリツプクリューブエルJ. Cluveriusの地理入門の如きは初版から数十年後の版本であつても、面白い蔵書票のあるので買ひ求めたりする様な成行となつた。その騎虎の勢には、自分ながら少々持て余さざるを得なくなる。(p.70)

苟も研究となれば、科学でも文学でも文献がなくてならぬから、誰でも多少の程度こそちがへ、蔵書癖の起るのは免れないと思はれる。然かしその収蒐に心掛けてゐる中には、大抵の研究室に共通の欠点として古い文献に遡らんとしても見当らない。そこで内外の古書目を探し求めるといふのも勢已むる得ないことになる。此の傾向が一たび起れば何時かは知らず識らずに珍書を漁る趣味が出来る。斯うなれば参考の必要如何は問題になつて、蔵書癖から全くの古本道楽に墮し、その病が膏盲に入つて一生終に解脱し得ない様になる。(p.68)



次の時代に向けて ——国際子ども図書館リニューアル



アーチ棟



レンガ棟

平成 12 年 5 月 5 日の開館から 16 年目の今年、平成 27 年は、国際子ども図書館にとって大きな節目の年となります。6 月末に、平成 24 年 2 月から約 3 年 4 か月の工期を経て、敷地の西北部に、既存の建物に向かいあう形で新館が完成しました。

私たちは、ガラスに覆われ、美しい曲線を描く弓状の新館を「アーチ棟」と、約 100 年前に建てられた既存の建物を「レンガ棟」と名付けました。形状と材質…ちょっとちぐはぐですが、それぞれの特徴をひとことで表す呼称です。気軽にこの名で呼んでいただければ幸いです。

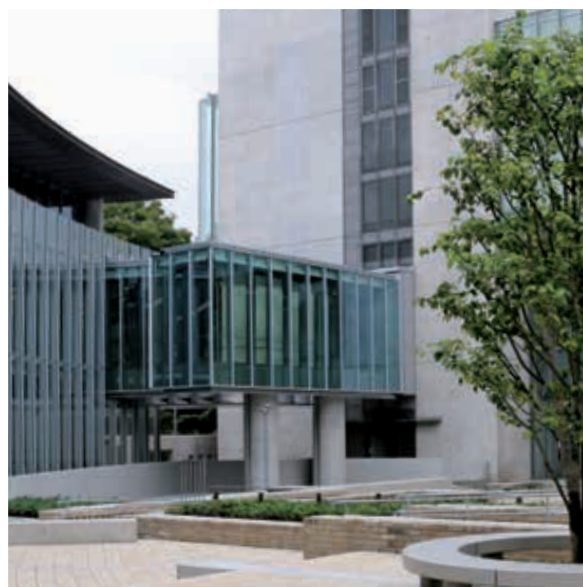
建築の視点からは、別稿「アーチ棟のできるまで」で紹介しています。本稿では、リニューアルする国際子ども図書館の各部屋とサービス・事業について紹介します。



◀▲**児童書研究資料室** 柱のない大空間で、フレキシビリティの高い空間としています。カーテンウォールには室内へ入る紫外線を抑制するガラスを採用しています。天井は斜めになっており、中庭に向かって広がっていく空間となっています。

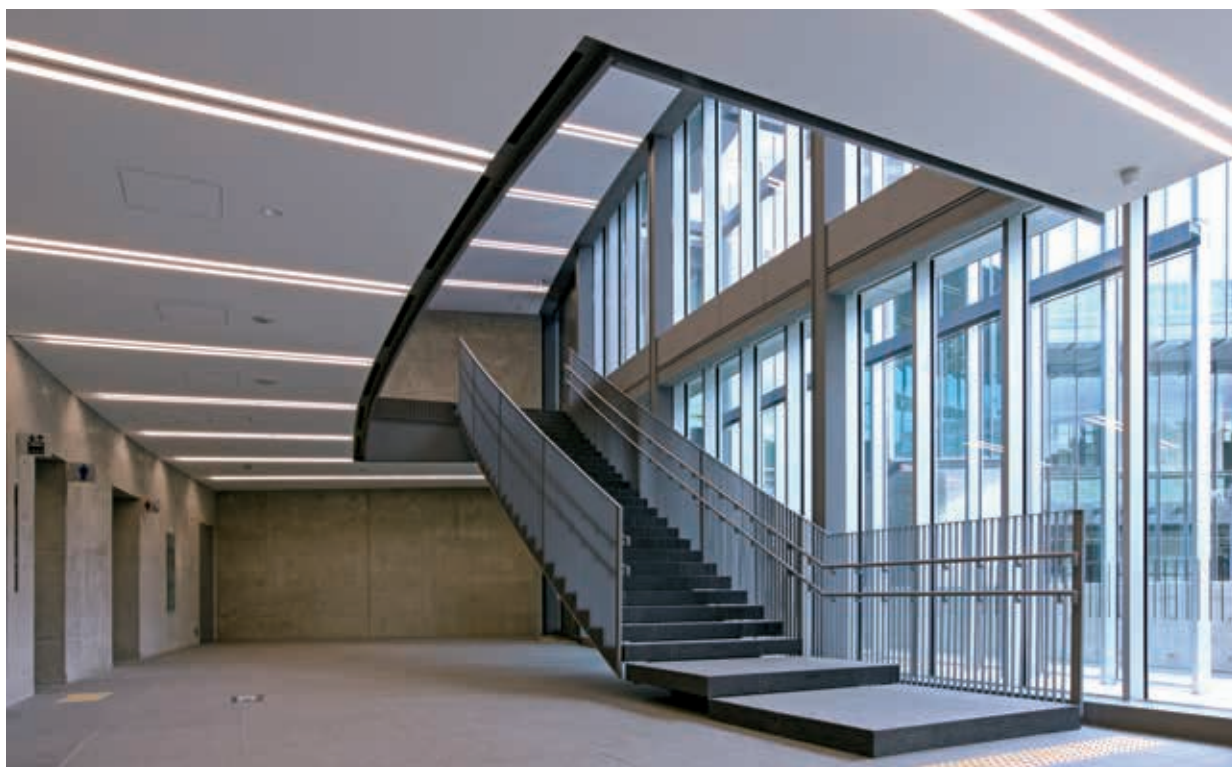
▶**サイン** わかりやすく、色彩豊かなサインを目指しました。英語、中国語、韓国語の多言語表記を行い、外国の方にもわかりやすいサインとしています。





◀▲レンガ棟・アーチ棟連絡通路 2階にはガラス張りの連絡通路を設置しています。連絡通路下の外構は、段差なく、レンガ棟サブエントランスからアーチ棟へ移動できるようになっています。

▼メイン階段 アーチ棟1階と2階をむすぶメイン階段は建物のアーチ状の曲がりに合わせ、緩やかにカーブを描いています。





▲**屋上** 屋上緑化には地被植物のハイビヤクシンを植え、自動で散水する灌水設備を設置しています。また、太陽光発電パネルを設置しています。発電量などが分かる表示盤を2階廊下に設置し、自然エネルギー利用の状況が分かるようにしています。

◀**植栽** 敷地には多くの樹木を植えています。敷地北側にはアーチ棟建設前からの樹木を配置し、また武蔵野の樹木・野草の保存も行っています。

▼**書庫** 地上の建物はアーチ形の曲形状をしています。地下書庫は直線形状としています。ハンドル式移動書架と固定書架が設置されています。火災の際には水ではなく、窒素ガスで消火する設備を備えています。





1. 国際子ども図書館リニューアルの基本概念

国際子ども図書館は、旧帝国図書館の建物を改修し、サービスを提供してきました。しかしながら、国内で刊行されるすべての児童書と、「国際」を冠する図書館として海外の児童書を収蔵するためには書庫スペースが不十分でした。また子どもの読書を取り巻く社会的環境および情報環境の大きな変化に合わせてサービスの改善をしていくためには、既存の施設だけでは不足することが明らかになってきました。そのため、施設の増設を視野においた、国際子ども図書館の図書館奉仕の方向性とそれに対応する施設のあり方について、国立国会図書館長が、外部有識者から成る「国際子ども図書館の図書館奉仕の拡充に関する調査会」に諮問し、平成17年3月に答申を受けました。

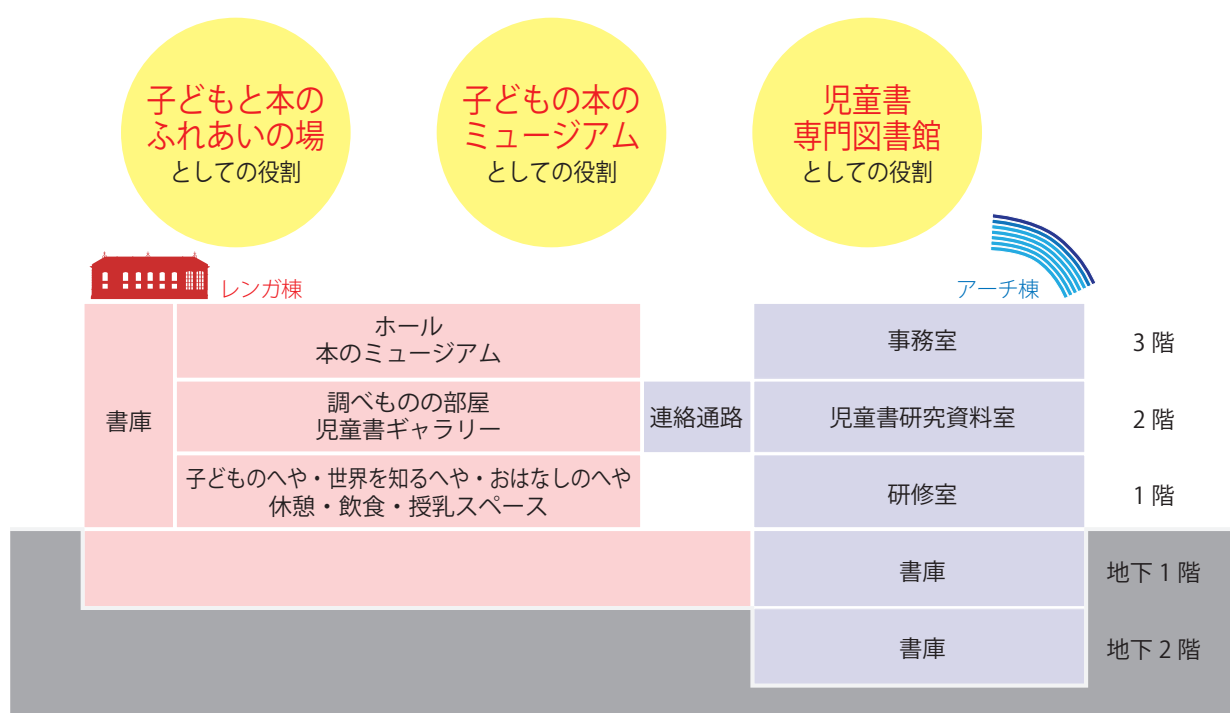
国際子ども図書館では、この答申をもとに新館建築に向けて検討を進め、平成23年3月に、サービスの改善とその基盤となる施設の整備についての基本的な方針をまとめた「国際子ども図書館第2次基本

計画」を策定しました（本誌602（2011年5月）号参照）。国際子ども図書館のリニューアルは、この計画に基づいて具体化し、準備を進めてきました。

「第2次基本計画」は、国際子ども図書館の基本的な役割として、次の3点を定めています。

- ① 児童書専門図書館としての役割
- ② 子どもと本のふれあいの場としての役割
- ③ 子どもの本のミュージアムとしての役割

アーチ棟建設に伴い、今後、国際子ども図書館の建物の役割を次のように分けることにしました。まず、利用者入口のあるレンガ棟は、どなたにでも広く子どもの本に触れていただく場として、主に②、③の役割を担います。また、レンガ棟を通り抜けてアクセスするアーチ棟は、①の児童書専門図書館としての役割を担う場となります。



2. 児童書の専門図書館として

2.1 児童書研究資料室

平成27年9月17日に、アーチ棟2階に明るく開放的な「児童書研究資料室」が開室します。この資料室は、児童書に関する調査研究のための閲覧室です。従来、施設上の制約から、レンガ棟の第一資料室と第二資料室とに出版国・地域で分けて開架していた約3万2千冊の児童書、関連資料を統合し、書庫に収められている児童書なども含む国際子ども図書館の資料とサービスを総合的に提供します。この資料室の開室を機に、従来から多くご要望をいただいていた日曜日の開室を実現します。

この資料室には、読書活動推進に関わる資料を集めたコーナーを新設するほか、最近1年間に出版された児童書のコーナー、時宜に応じたテーマで資料を展示する小展示のコーナーを設けます。

また、資料室の座席を増やすほか、1台で、検索、書庫資料の閲覧申込み、複写申込書の作成、デジタル化資料など電子情報の閲覧が行える利用者用端末を、現在の14台から、平成28年度には24台に増設する予定です。そのほか、少人数のグループでの調査研究にご利用いただける「グループ研究室」を設けます。

視覚障害者などへのサービスについては、国立国会図書館全体としてその充実を図っていますが、国際子ども図書館では、今年から関西館にある視覚障害者等用資料の取寄せなどを開始し、平成28年度にDAISYデータも利用可能にします。

2.2 書庫

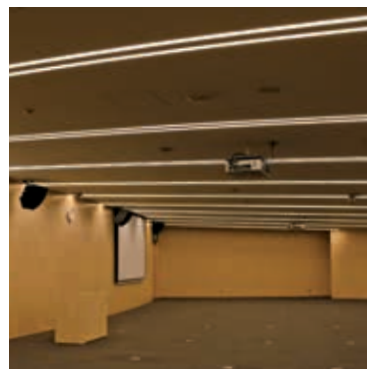
アーチ棟地下1、2階は約65万冊が収蔵できる書庫となります。レンガ棟の約40万冊規模の書庫は満架に近づいていましたが、これで今後数十年の資料の増加に耐えられます。これらの資料は「児童書研究資料室」で利用できます。

国際子ども図書館では、国内で刊行された児童書については、納本制度による収集はもとより、過去の未収集の児童書についてもできる限り広く収集するよう努めています。また、海外の児童書も、多くの国の基本的な児童書の充実を図るよう収集活動を継続します。

2.3 研修室

アーチ棟1階には、100名規模、50名規模の2つの研修室を設けます。これらの研修室で、児童書などに関する講演会のほか、児童書・児童サービス関係者の研修、交流の場として、様々なプログラムを提供していきます。

研修室1では9月に講演会を開催します。詳しくは本誌37ページのお知らせをご覧ください。



研修室2には子ども向けイベントとして科学あそびができるよう、流し台を設置しています。



3. 子どもと本のふれあいの場として

3.1 調べものの部屋

レンガ棟2階の第一資料室跡地には、平成28年2月に「調べものの部屋」が誕生します。ここには、中高生の調べものに資する参考図書類、特に中高生の関心が高い分野の資料、教科書に掲載された文学作品など約1万冊（当初は約8千冊）を開架します。主に中高生を対象とした資料室ではありますが、レンガ棟のほかの部屋と同様、どなたでも特別の手続きなしでご利用いただけます。

「調べものの部屋」における新しいサービスとして、平成28年度から、校外学習や修学旅行などの中高生を対象として、「調べもの体験プログラム」を開始します。これまで国際子ども図書館で実現できていなかった中高生向けの探究学習、調べ学習における図書館利用の促進を目指すサービスです。

3.2 子どものへや・世界を知るへや

レンガ棟1階の「世界を知るへや」は今年12月から、「子どものへや」は平成28年1月から、いずれも2月末まで休室し、改修工事をします。

「世界を知るへや」では、この部屋にあった世界各国に関する日本語の一般書を「調べものの部屋」に移し、外国語の児童書をこれまでより多く開架します。日本語訳で親しんだ児童書の原書がここで見つかるかもしれません。

「子どものへや」では、靴を脱いで本を読むことができるスペースを設けます。



調べもの体験プログラム（イメージ）

3.3 休憩・飲食・授乳スペース

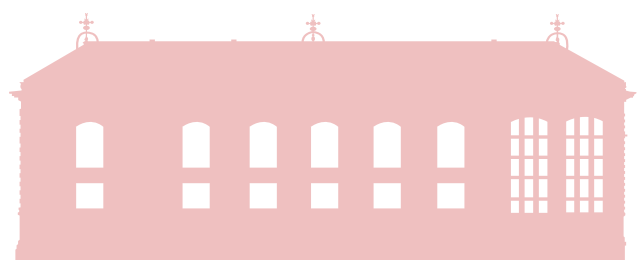
レンガ棟1階に入って左手に、休憩・飲食・授乳スペースを設けます。専用の授乳スペースを設けるほか、小さなお子様と一緒に靴を脱いでひとやすみできるマットスペースなども備えます。（平成27年11月～）

4. 子どもの本のミュージアムとして

4.1 児童書ギャラリー

レンガ棟2階の第二資料室跡地には、平成28年2月に「児童書ギャラリー」が開室します。現在「本のミュージアム」で開催中の「日本の子どもの文学」展をご覧になった方から、「懐かしい」「手に取って読みたい」といった声が寄せられています。その声にお応えして、「児童書ギャラリー」では、パネルなどでの解説を交え、明治以降の日本の児童文学史、絵本史が概観できる資料約1千冊を手に取って読んでいただけるように展示します。

また、ギャラリー内の端末では、「絵本ギャラリー」をはじめとする電子展示会や、「国立国会図書館デジタルコレクション」をご覧いただけます。



4.2 本のミュージアム

レンガ棟3階の「本のミュージアム」では、平成23年2月から常設的な展示として、「日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」展を開催してきましたが、今年の10月末日をもってこの展示を終了します。

平成28年以降は、数週間から数か月の期間の展示会を順次開催していきます。第一弾として、国際子ども図書館リニューアルを記念して「現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀」を平成28年3月から開催します。1970年代以降、海外の児童書がわが国にどのように紹介されてきたかを概観する展示会です。ご期待ください。

4.3 ホール

レンガ棟3階ホールでは、これまで講演会や研修会、音楽会などを開催してきましたが、今後は主に音響の良さを生かした音楽会などのイベントを実施していきます。

また、平成28年3月からは、新たに帝国図書館時代からの歴史と国際子ども図書館のサービスを紹介する展示コーナーが誕生します。明治・大正・昭和の文豪が帝国図書館を利用したことがわかる作品なども展示します。

なお、これまで3階ホール内に「メディアふれあいコーナー」を設け、「絵本ギャラリー」などの電子展示会とDVDを楽しんでいただきましたが、今年の8月末をもってこのコーナーを終了します。なお今後「絵本ギャラリー」は、レンガ棟2階の「児童書ギャラリー」に設置する端末でご覧いただけます。

5. 今後の国際子ども図書館の取り組み

ここまでは平成27年度の国際子ども図書館のリニューアルとして、アーチ棟完成という施設上の変更に伴う館内サービスの改編を中心に紹介してきました。「第2次基本計画」では、児童書の専門図書館として、調査研究、研修、情報発信などを通して、児童書や子どもの読書にかかわる多様な活動に協力することも重要な事業と位置づけています。

リニューアルを着実に実現するため、今年度は一部の研修・交流事業を休止しますが、平成28年度以降、新しい国際子ども図書館で、講演会や子ども向けのイベント、研修事業などを再開し、子どもの本にかかわる活動のサポートに努めていきます。特に、読書活動推進のための連携・協力を係る事業として、図書館員のための基礎的な研修の実施を計画しています。まず、平成28年度には、これまで継続して開催してきた「児童文学連続講座」において、基礎的な内容の講座を開催し、平成29年度からは、図書館の児童書・児童サービスに関する基礎的な研修の開催を予定しています。

先に紹介した中高生向けの「調べもの体験プログラム」など、子ども向けのイベントも充実させていきます。

さらには、国際子ども図書館への来館が難しい方々にも役立てていただけるように、国際子ども図書館ホームページで提供している子どもと本の情報提供を、よりわかりやすく充実させていく予定です。

国際子ども図書館は、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」を合い言葉に、子どもの本にかかわる様々な人々と連携していきます。国際子ども図書館のこれからの活動にご期待ください。

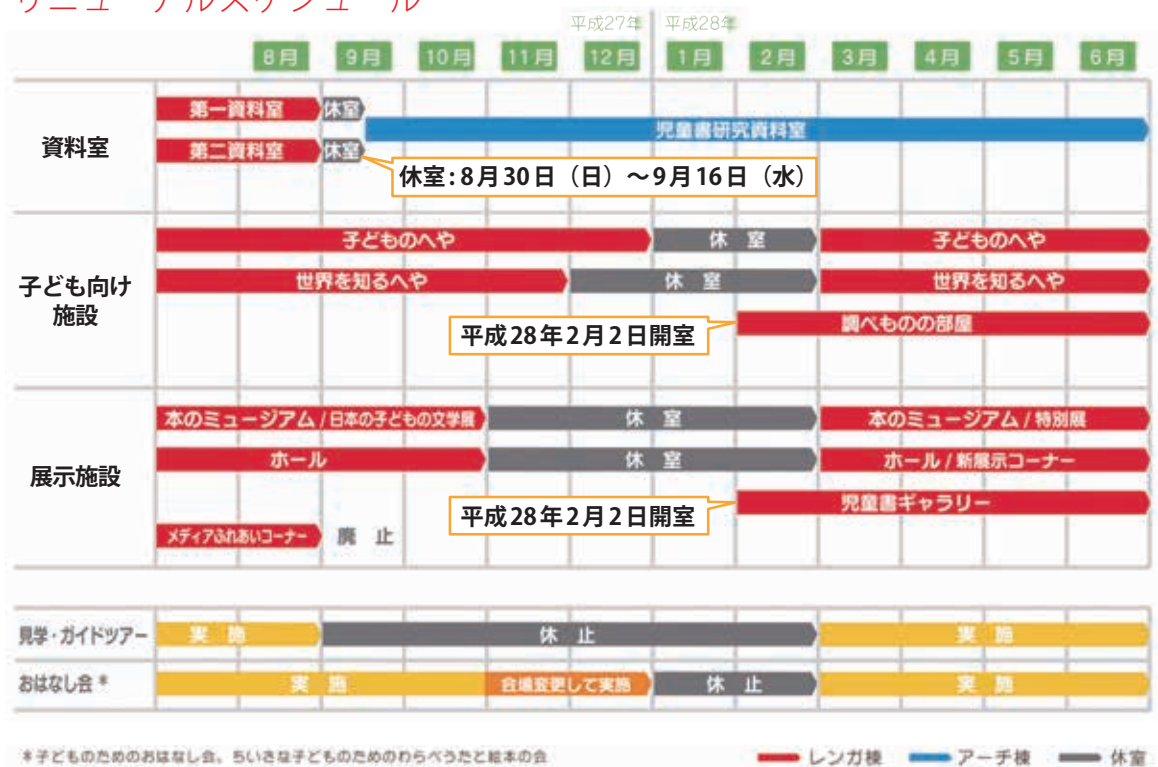
(国際子ども図書館企画協力課)



リニューアルに伴う休室・一部サービスの休止等について

アーチ棟完成は6月末ですが、夏休み期間の図書館利用にご不便をおかけしないように、資料室は9月になってから約半月の休室期間を設けて引越しをし、「児童書研究資料室」として開室します。その後、レンガ棟において、資料室等の引越し後のスペースの改修や、既存の部屋の使い勝手を良くするための改修が続きます。順次工事をを行い、準備ができた部屋からサービスを開始していきます。今年度中はご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。各室の休室、開室のスケジュールは次のとおりです。

リニューアルスケジュール



○第一・第二資料室の休室

休室期間 8月30日(日)～9月16日(水)

○児童書研究資料室の開室

開室 9月17日(木)

第一・第二資料室は統合し、アーチ棟2階に移転し、児童書研究資料室として開室します。児童書研究資料室は、日曜日も開室します。

なお、資料移転に伴い、10月上旬(予定)まで書庫資料の利用に一部制限が発生します。詳しくは、本誌7月号のお知らせ「国際子ども図書館所蔵資料の新館書庫への移転作業について」をご覧ください。

○国際子ども図書館ガイドツアー・団体見学の休止

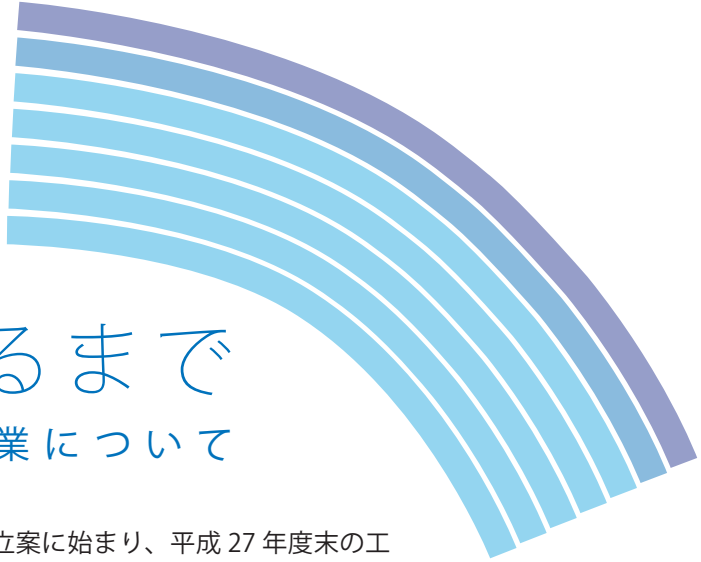
休止期間 9月1日(火)～平成28年2月29日(月)

休止期間中も、一部休室している場所を除いて、館内は利用できます。

リニューアル関連情報については、ホームページでもご覧ください。

<http://www.kodomo.go.jp/about/future/renewal2016/>

○問合せ先 国際子ども図書館 電話 03(3827)2053(代表)

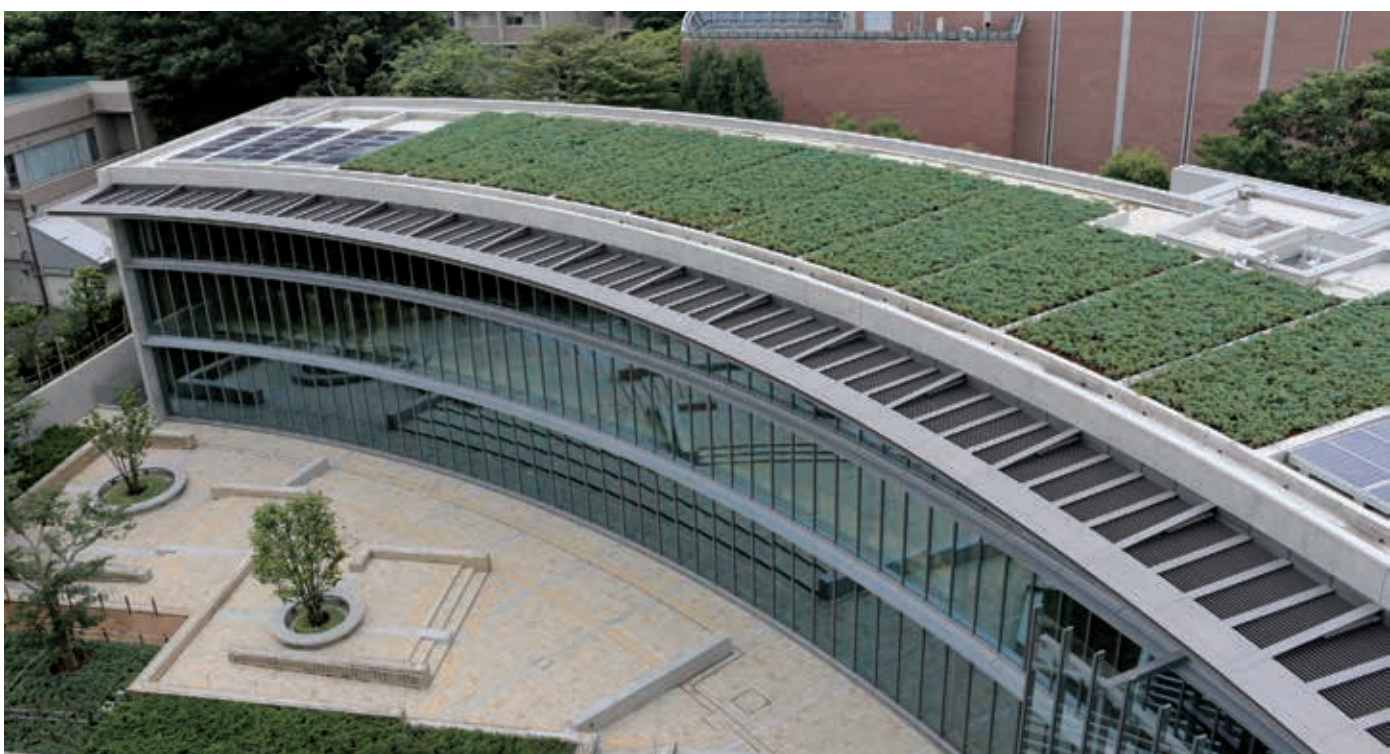


アーチ棟のできるまで

国際子ども図書館拡充整備事業について

国際子ども図書館拡充整備事業は、平成 16 年度の事業立案に始まり、平成 27 年度末の工事完成（予定）まで、約 11 年をかけた事業です。敷地内に新館（アーチ棟）を増築し、その完成後に、既存の建物（レンガ棟）の改修工事を行います。

本稿では、平成 27 年 6 月 30 日に竣工したアーチ棟建設を中心に、国際子ども図書館拡充整備事業についてご紹介します。





平成 16 年度

「国際子ども図書館の図書館奉仕の拡充に関する調査会」の設置（平成16年9月）と答申（平成17年3月）

国際子ども図書館は、旧帝国図書館として明治期および昭和初期に建てられた建物（レンガ棟）の増築・保存改修を行って、平成14年5月に全面開館しました。

歴史的な建造物でサービスを行うため、開館当初から、施設の狭隘や構造上の制約等によって十分展開できていないサービスがあり、また書庫の満架が近づいていました。このため、「国際子ども図書館の図書館奉仕の拡充に関する調査会」が設置され、施設の増設を視野において、国際子ども図書館が児童書のナショナルセンターとして拡充し発展させるべき図書館奉仕の方向性とそれに対応する施設のあり方についての検討が行われました。平成17年3月の同調査会からの答申を踏まえ、新館（アーチ棟）の増築に向けた取り組みを進めました。

平成 18 年 4 月

「国際子ども図書館拡充基本計画」策定

平成 18 年～19 年

アーチ棟新設の企画立案検討

国立国会図書館上野宿舍解体

平成 19 年度

敷地・建物調査

事業計画立案

アーチ棟を建設する敷地確保のため、平成18年3月にレンガ棟敷地西側に隣接していた国立国会図書館上野宿舍を解体しました。

アーチ棟新設の企画立案検討を平成18年～19年に、敷地調査および建物調査を平成19年度に行い

ました。

国立国会図書館では、平成18年4月に策定した「国際子ども図書館拡充基本計画」と、平成18～19年度に行った企画検討および敷地・建物調査を基に、平成21年2月、建物の拡充整備の方針、敷地・建築条件、アーチ棟の業務内容と体制、将来の来館予測、施設全体・各室・設備の性能・機能の要求水準、施設管理・運用方針、各室面積、レンガ棟リニューアル、セキュリティ等の計画を取りまとめた「事業計画書」を作成しました。

平成 21 年 12 月

設計者決定

上記の事業計画書を基に設計条件を確定させた上で、設計等の提案を総合的に評価して設計者を決定する公募型プロポーザル方式の設計者選定を行い、平成21年12月に、安藤忠雄建築研究所と株式会社日建設計の設計共同体（以下、設計JV）を設計者に決定しました。設計JVは、平成14年度竣工のレンガ棟増築・保存改修の設計者でもあります。「歴史的建築物であるレンガ棟と調和する新たな図書館の創造」を設計コンセプトとし、平成21年12月から平成24年3月まで設計が行われました。（設計の内容は16～17ページをご覧ください。）

平成 23 年 3 月

基本設計完了

「国際子ども図書館第2次基本計画」策定

設計概要

設計の方針と考え方について、紹介します。

<基本方針>

保存図書館としての機能、研究図書館としての機能、そして閲覧図書館としての機能、それぞれの機能を一体的に結び付けながらも、適切に分離した機能的な計画とする。また、敷地環境における既存の空間・歴史・環境などを尊重しながら、それぞれが有機的に結ばれた図書館を目指す。

<事業の目標>

資料・情報機能の高度化

調査研究機能の推進

子どもの読書に対する新たな役割

新設諸室

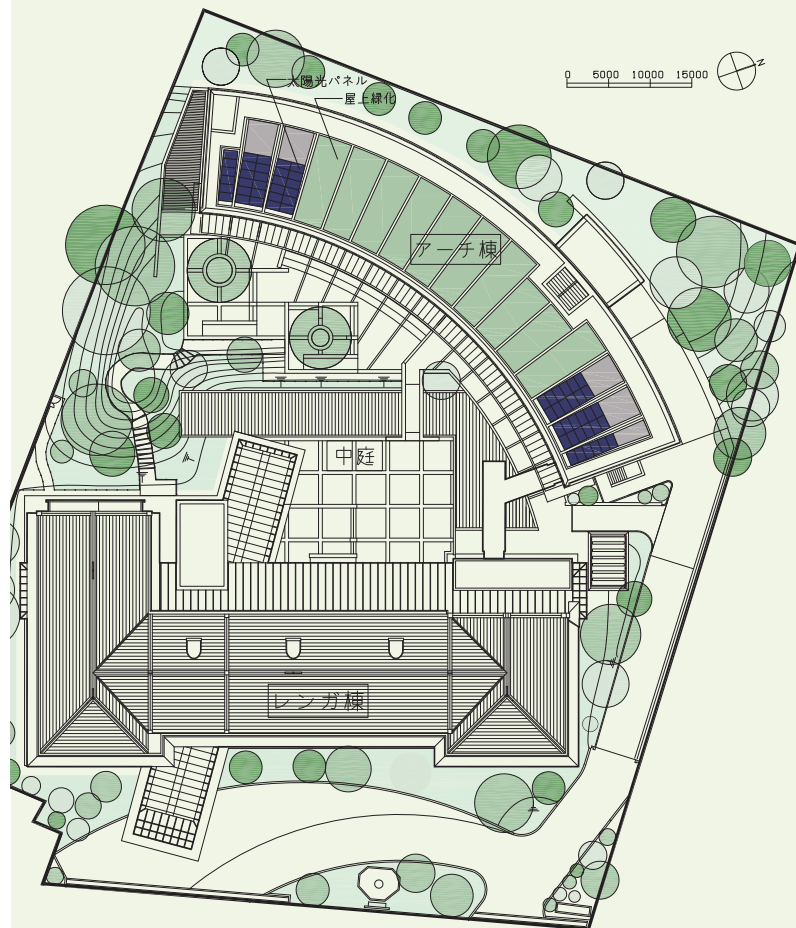
- ・高度化した情報提供機能を持つ大閲覧室
- ・国内外の人材育成に協力する研修室
- ・読書活動を通じたコミュニケーションの場としてのグループ研究室
- ・サービスや作業内容に相応しいスペースを確保した事務室

<アーチ棟配置計画>

- ・明治当初の帝国図書館の計画であった中庭をもつ図書館として完成することを目指す。
- ・中庭を創る木々は貴重なものであり、また創建時より100年近くレンガ棟と共に生きた図書館環境を形成する変えがたい中心核である。中庭を中心にレンガ棟と一体となった環境を創造し、利用者にとっては憩いの場として積極的に利用される計画とする。
- ・レンガ棟建物の住環境に配慮し、かつ既設中庭や樹木の歴史を保存するため、中庭を取り囲むように、アーチ状に建物を配置する。
- ・周辺敷地の特定箇所に連続した日影を生じさせないよう配慮し、また視覚的な圧迫感を与えぬよう、延べ面積の60%を地下に埋没させることにより、建物高さを可能な限り低く抑えた。

<アーチ棟平面計画>

- ・「知の探検」という視点からイメージされた伸びやかで好奇心が広がっていくような建物・空間を目指す。緩やかに弧を描く平面が、シークエンスの変化をもたらし、本のページをめくる楽しさのような知的冒険心を刺激する。
- ・閲覧室、事務室の大空間は最適なスパンを配慮した上で、安全性や経済性など総合的に検討し、地上各階を無柱空間とすることでフレキシビリティの高い空間とする。





<アーチ棟断面計画>

- ・児童書研究資料室は2階に設け、連絡通路を介してレンガ棟からスムーズにアクセスできるように計画する。
- ・研修室は中庭との連絡が可能な1階に設けることで、開放感を与えるとともに野外学習などの活動が容易に行われるようにする。
- ・書庫は地下1階から地下2階に配置することで、まとまった収蔵スペースを確保し、保存書庫として温湿度調整など安定した室内環境を保てるように計画する。

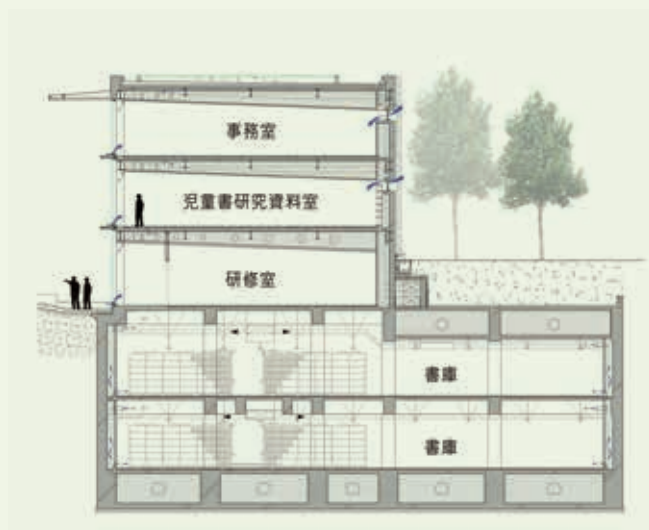
<外観>

- ・南側外観は、全面ガラスカーテンウォール仕上げとすることで透明性の高い、開放感のある立面とする。
- ・力強い形態を持つ歴史的建築物のレンガ棟とは、明確な対比構成とする。

<アーチ棟環境計画>

- ・自然換気ユニットをカーテンウォール下部に設け、外部空気を取り入れることで空調負荷が軽減できるようにする。
- ・ガラスは高断熱の複層ガラスを採用し、日射による熱負荷の低減を図るとともに、窓際にはロールスクリーンを設置し日射を抑制する。

- ・地下にはクールピットを設け、夏は地下の涼しい空気、冬は暖かい空気を利用した空調を行う。また屋上には太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーを利用する計画とする。
- ・屋上や敷地全体を緑化することにより、ヒートアイランド現象の緩和および自然環境の保全に配慮する。
- ・雨水を地下ピットに集め、トイレの洗浄水などに再利用し、水道使用量を軽減できるようにする。
- ・LED照明を採用し、消費電力を少なくするとともに、資料にとって有害な紫外線を出さないようにする。
- ・南側屋根部に庇を設けることで、2階児童書研究資料室、3階事務室のカーテンウォール窓際の直射日光が軽減できるように計画する。



平成23年7月～平成24年3月

埋蔵文化財調査（Ⅰ期）

平成24年5月～平成25年3月

埋蔵文化財調査（Ⅱ期）

工事に先立ち、埋蔵文化財調査を行いました。Ⅰ期は工事発注前の平成23年7月から平成24年3月に、Ⅱ期は平成24年5月から平成25年3月、建設工事で地下の土を掘っている際に調査を行っています（本誌638（2014年5月）号「発掘！埋蔵文化財調査から見た歴史—国際子ども図書館の新たな幕開けへ向けて—」参照）。

平成24年2月、3月

アーチ棟工事契約

アーチ棟増築とレンガ棟使用調整改修（アーチ棟へ移転した資料室・事務室の改修）工事は、技術提案と入札価格を総合的に評価する総合評価落札方式により入札が行われ、平成24年2月に、建築工事、電気設備工事および機械設備工事を契約しました。

工事契約直後の平成24年3月には、工事監理業務等も契約しました。

平成24年2月～平成27年6月

アーチ棟工事（19ページ参照）

平成26年12月

棟名称決定

平成27年6月

アーチ棟完成引渡し

平成28年2月

レンガ棟使用調整改修工事完成（予定）

平成28年3月

レンガ棟外壁・屋根保存改修工事完成（予定）

レンガ棟は明治39（1906）年に建設され、昭和4（1929）年に増築された旧帝国図書館の建物を改修して利用しています。建設後100年以上経過しており、東京都歴史的建造物に指定されています。

アーチ棟完成後、レンガ棟の使用調整改修と、外壁・屋根保存改修工事を行います。それぞれ平成28年2月、3月の完成を予定しています。

（総務部管理課）

※これらの拡充整備は、国立国会図書館が支出委任を行い、国土交通省関東地方整備局から発注されました。

<施設概要>

□敷地面積 7735.31㎡

□地域地区

第1種中高層住居専用地域

準防火地域

第2種風致地区

第1種文教地区

第3種高度地区

緑地保全地区

□官庁施設の総合耐震・対津波基準（国等の統一基準）の

耐震安全性分類

構造体Ⅱ類

建築非構造部材B類

建築設備乙類

レンガ棟：免震構造 レトロフィット

アーチ棟：耐震構造

□建物規模

<レンガ棟>

組積（レンガ）造、一部鉄筋コンクリート造、鉄骨造

地上3階（書庫6層）地下1階

（建築基準法上は地上7階 地下1階）

明治39年竣工 昭和4年増築 平成12,14年増築

建築面積 1929.58㎡（建築基準法）

延べ面積 6671.63㎡（建築基準法）

<アーチ棟>

鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造

直接基礎、べた基礎

地上3階 地下2階

（建築基準法上は地上2階 地下3階）

平成27年竣工

建築面積 1102.67㎡（建築基準法）

延べ面積 6184.11㎡（建築基準法）



工事のポイント

1. 地下・地上構造物

アーチ棟は、レンガ棟の西北側の敷地奥に配置していますが、建設予定地は狭隘であり、かつ工事車両等の搬入経路や工事ヤードが狭いなどの制約がある中、工夫しながら工事を行いました。

地上3階、地下2階の構造物は、地下部が地上部より張り出している複雑な形状です。狭い用地のほとんどが地下躯体範囲となるため、地下構造物の工事にあたっては、仮設の床（構台）を設け、その上をクレーンやトラック、コンクリート車が移動しました。

地上構造物は鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨、コンクリート）で、外壁は曲面のガラスのカーテンウォールとコンクリート打放し仕上げとなっています。

構造物の鉄骨は、構台にクレーンを設置して、構台を解体しながら組み立てました。

コンクリートの壁は、そのまま内部・外部の仕上げとなるので、曲面が美しく打ち上がる必要がありました。またコンクリートの型枠を固定するセパレーターのコーン（表面に見える3cm程度の丸模様）は外観・内観のデザインの一部

となるため、その位置は意匠上の配慮をしています。

歪みのないきれいな曲線を出すため、コンクリート型枠の厚さを普通のものより3mm厚いものを使用し、型枠のジョイント（継ぎ目）部分に目違いや隙間が生じないよう工夫をこらしました。

2. 書庫を水から守る

アーチ棟は地下に書庫を配置しています。書庫への止水対策として、地下外壁に防水施工を行っています。また書庫の下には雨水や湧水を溜める地下ピットが設置されていますが、書庫に湿気が上がらないように、ピット天井・壁にも塗膜防水を塗布しました。外部に面する部分は床・壁・天井を二重化し、万が一、土に面する壁や地下構造物の天井から水漏れがあっても、書庫に水が入らないように二重壁内で排水します。

3. 外装

中庭に面した外装は全面ガラスのカーテンウォールとなっています。ガラスのカーテンウォールは曲面であり、ガラスを支える支柱（^{ほうだて}方立）の角度が1本

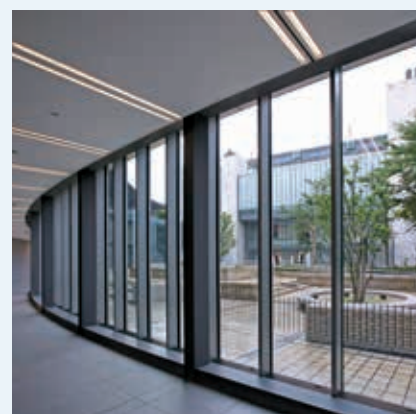
1本微妙に異なるため、測量・調整・確認を繰り返し行い、据え付けました。

カーテンウォールの上に長さ3.4mの鉄骨^{おおひさし}の大庇が設置されています。大庇先端の曲線は意匠のポイントであるため、庇先端が下がらないように設置し、また溶接の仕上がりの確認を繰り返し行いながら、美しい曲線に仕上がるよう、工事管理を行いました。

4. 樹木保存

台東区の条例により、解体した宿舍の周辺にあった樹木を保全する必要があります。そのためアーチ棟の地下工事着手前にそれらの樹木を一時、敷地外に移植し、地上部の建物が出来上がった後、再度敷地に移植しました。

東京藝術大学側の植栽の下は地下書庫や敷地境界壁の底盤があり、人工地盤になっています。自動で散水する灌水設備により、樹木が枯れないように配慮しました。



放送開始 90 年記念

脚本アーカイブズ・シンポジウム

「脚本アーカイブズ」の新たなステップへ ー未来に向けた保存と利用

国立国会図書館では、日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム（脚本コンソーシアム）から約27,000点の脚本・台本の寄贈を受け、昨年4月から閲覧公開しています。

平成27年3月18日、国立国会図書館東京本館において、脚本アーカイブに関するシンポジウムを開催しました。ここではこのシンポジウムの様子を紹介するとともに、新たにデジタル化した脚本についても紹介します。

（利用者サービス部音楽映像資料課）



脚本アーカイブズ・シンポジウム*

今回のシンポジウムは、国内におけるラジオ放送開始から90年にあたる記念イベントでもありました。

当日は、山田太一日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム代表理事、有松育子文化庁次長および大滝則忠国立国会図書館長による開会挨拶の後、2部構成で座談会とパネルディスカッションが行われました。

第1部 座談会『継承されていく脚本の「魅力」～アーカイブの価値とは』

脚本コンソーシアムからの寄贈を受けて国立国会図書館が提供している1980年以前の脚本を素材として、岡室美奈子氏（早稲田大学演劇博物館館長）を司会に、出演者、制作者および脚本家の4名により、脚本の重要性和保存の意義が語り合われました。

脚本のもつ情報

はじめに、登壇者ゆかりの脚本の画像を見ながら、作品にまつわる思い出や制作当時のエピソードが披露されました。演出家でありプロデューサーの嶋田親一氏は、フジテレビ開局の試験放送用ドラマ「執刀」について、「映像作品の先輩にあたる、映画みたいなものを作りたいという願望から」ドイツ語を使用する場面へ字幕を付けることになった状況を、テレビ草創期の活気あふれる様子を振り返りながら紹介しました。女優の三田佳子氏は、自身が所蔵していた脚本を紹介しながら、「脚本は、ひとつひとつにサインして、誰にも渡さないぞって感じだったが（笑）、国の保存機関で、そのときどきの（自分が書いた）書き込みやなんかと共に残すことができ、ありがたい」と述べました。岡室氏は、こうしたエピソードを受けて、制作現場で使用されて書き込みやメモが貼付された脚本は、「単な

る言葉の記録ではなく、役者さんの身体の記録」でもあり、制作や演出の様子を知る上でも貴重な資料であると指摘しました。

脚本のアーカイブズのあり方

嶋田氏は、ドラマ制作に関係する若い世代に対して「もっと脚本を読んでほしい」と述べ、アーカイブズの必要性を訴えました。演出家でありプロデューサーの中村克史氏は、シナリオのもつ文学的価値を指摘し、その時代の脚本家がどのような仕事をしたかを検索し、学べるようなアーカイブズが欲しいと述べました。脚本家・小説家の山田太一氏は、「脚本を通して過去から継承している部分を大事にしていくことで、今よりずっと豊かな文化が生まれる。加えて、映像そのものをみる機会が増えることも大切であり、共有することで、脚本に対する関心が高まっていく」と指摘しました。

座談会は、制作に携わった方々ならではの作品に対する強い想いと豊かな経験が披露され、脚本の魅力だけでなく、当時の番組制作の様子を知る、大変貴重な機会になりました。

第2部 パネルディスカッション『文化資源を活かすためのデジタルアーカイブとは？～脚本アーカイブズを中心に』

吉見俊哉氏（東京大学教授）をコーディネータとして、パネリスト3名によるパネルディスカッションが行われました。導入として各パネリストによる10分間のプレゼンテーションの後、脚本アーカイブズを中心に、デジタル時代の文化資料保存の可能性や、その利活用のあり方と課題について活発な討論が行われました。

最初に高野明彦氏（国立情報学研究所教授）から、「知識の蔵を繋ぐ」をキーワードに、高野氏が構築している脚本家藤本義一アーカ

*このシンポジウムは、一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが主催し、国立国会図書館および文化庁の共催により行われ、約260名が参加しました。なお脚本アーカイブズ・シンポジウムは、脚本コンソーシアムの主催により毎年開催されています。国立国会図書館を会場として開催されるのは平成24年に続いて2回目となります。（参考：石橋映里「脚本アーカイブズ・シンポジウム失われた脚本・台本を求めて―文化リサイクルの意義」『国立国会図書館月報』615/616（2012.6/7）号 pp.18-24）

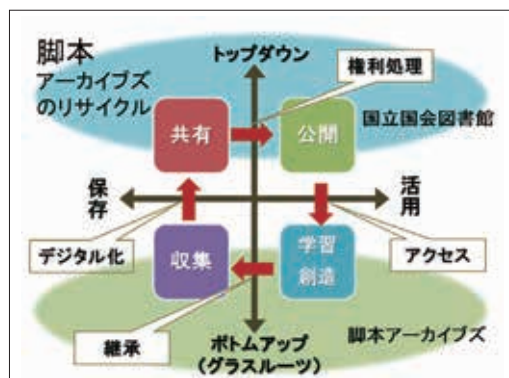
当日の配布および報告資料は、当館ホームページに掲載しています。

<<http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/20150318sympo.html>>

イブ等を例として、個別に作られた複数のアーカイブを連結、集積させる取り組みの紹介がありました。当館からは、大場利康電子情報部電子情報企画課長が、国立国会図書館のデジタルアーカイブ事業を紹介するとともに、国内におけるデジタルアーカイブ促進に向けた各種課題を提示しました。福井健策氏（弁護士）からは、アーカイブをめぐる法制度をテーマとして、著作権処理の問題と日本モデル構築の必要性が提起されました。

ディスカッションでは、知の再生産を図る上でのナショナル・アーカイブ構想促進の重要性を取り上げるとともに、脚本アーカイブズを例として、データの保存・活用のサイクルにおける、権利処理の問題、活用の具体化の必要性などについて、第1部の座談会登壇者および一般参加者からの意見・提案を交えつつ、討論が行われました。

脚本アーカイブズのリサイクル
(吉見氏プレゼンテーション資料より)



パネルディスカッションの様子



所蔵脚本の紹介とデジタル化について

国立国会図書館は、脚本コンソーシアムと共同で、当館所蔵の脚本 35 冊（約 1,600 コマ）のデジタル化を行い、平成 27 年 3 月 17 日から「国立国会図書館デジタルコレクション」（URL: <http://dl.ndl.go.jp/>）で公開しました。

デジタル化の対象資料は、脚本コンソーシアム事務局と共同で、当館所蔵脚本約 27,000 冊の中から選定しました。資料保存の観点から、劣化の進んだ資料（「雲雀」等）、生原稿（「姿なき犯罪」等）、青焼き原稿（「歌謡ジョッキー」等）などを含めました。また、利用促進を図るため、人気ドラマの脚本（「私は貝になりたい」「太陽にほえろ！」「七人の刑事」等）や、山田太一、早坂暁、向田邦子などの著名な脚本家の作品も含めました。

公開にあたり「国立国会図書館デジタルコレクション」のトップページには、アクセスしやすいように脚本専用の入口を設けました。35 冊のうち、2 冊は著作権保護期間満了のためインターネット公開しましたが、残りの 33 冊は国立国会図書館内での限定公開となっています。なお、館内公開の 33 冊は所定の手続を経た後、平成 27 年度中には図書館向けデジタル化資料送信サービスにより、全国 500 館以上の参加館でも閲覧できるようになる予定です。

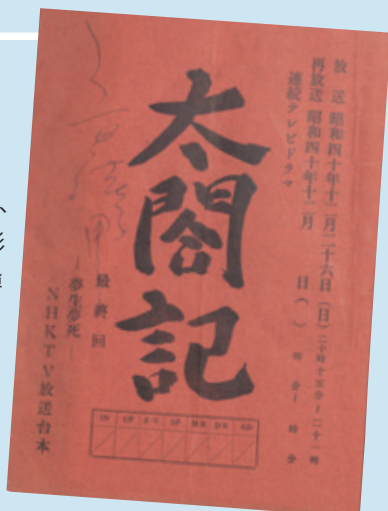
所蔵資料を、外部機関・団体との共同事業でデジタル化し公開するのは、国立国会図書館では珍しいケースです。今後、外部との連携協力によるデジタル化推進の一例となると考えます。次ページでは、デジタル化した資料の一部をご紹介します。

太閤記 夢生夢死

1965-12-26 / 茂木草介 / NHK

【Y851-N01-12121】

NHK大河ドラマ第3作。豊臣秀吉役、織田信長役に無名の新人だった緒形拳、高橋幸治が抜擢され、人気を博した。放映の前年10月に開通した東海道新幹線の映像で始まるオープニングや、番組中に史料や時代背景を説明する演出も話題になった。



雲雀

1936-4-9 / 堀江林之助 / JOAK

【Y851-N01-41187】

放送日が判明している国立国会図書館所蔵資料の中で最も古い脚本。NHKの前身である東京放送局（JOAK）制作、堀江林之助作。杉村春子、左ト全ほか出演。昭和15年に再放送もされている。



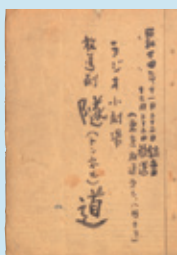
トンネル 隧道

1949-12-22 / 水沢草田男 / NHK

【Y851-N01-45013】

著作権保護期間満了のためインターネット公開した作品のひとつ。水沢草田男は大正11（1922）年生れ、NHK専属作家として活躍し、32歳の若さで逝去。

隧道は、強盗殺人を犯した男2人が逃亡途中の暗闇で交わす会話から構成されるラジオドラマ。後に舞台劇としても書き直された。こちらは『青年戯曲集（青年双書第9集）』に収録されている。

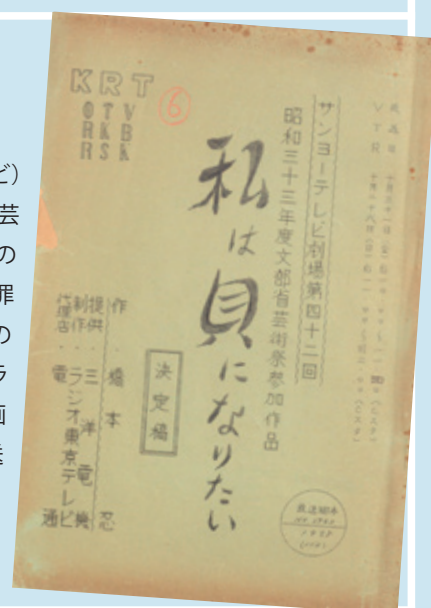


私は貝になりたい

1958-10-31 / 橋本忍 / KRT

【Y851-N01-40714】

TBSの前身KRT（ラジオ東京テレビ）制作。フランキー堺主演、第13回芸術祭大賞受賞。太平洋戦争中、上官の命令に従った行為が、戦後、戦争犯罪に問われ、死刑となる平凡な理髪師のつらく悲しい物語。後に「テレビドラマの金字塔」と評された作品。映画化もされ、近年もリメイク版が放送された。



国立国会図書館デジタルコレクション収録の脚本

放送日 / 作家 / 放送局 【 】は請求記号（敬称略）

七人の刑事 時には母のない子のように

1965-12-27 / 佐々木守 / TBS

【Y851-N01-24483】

刑事7人全員が毎回出演することを鉄則とした大人気ドラマ。派手なアクションや謎解きはないが、様々な社会問題に取り組み、人間ドラマの魅力を引き出す脚本と演出は高い評価を受けた。本作は今野勉演出。作中で流れるのが、マヘリア・ジャクソンの歌う黒人霊歌「時には母のない子のように（Sometimes I Feel Like A Motherless Child）」である。



姿なき犯罪

1947-4-30 / 菊田一夫 / NHK

【Y851-N01-45259】

NHKのラジオドラマ「ラジオ実験室」の枠で放送された番組の原稿。

この作品は昭和22（1947）年夏に始まり大ヒットとなった連続ラジオドラマ『鐘の鳴る丘』に先立ち放送された。

デパートの夜警係が嵐の晩に精神に異常をきたし、幻影をみるというストーリー。「ラジオドラマとしての技巧の限界ぎりぎりを書いてみたいと思って執筆した作品」とあるように、効果音等の指示が細かく書きこまれている。



What's 書誌調整

第2回 目録規則は進化する

ふたたび

こんにちワン、カーネ（CANE）です。ぼくの名前、おぼえてくれたかな？

前回（7月号）予告したとおり、今回は「目録規則」がテーマです。このウェブ時代に目録や目録規則がどう変わっていくか、ぼくも広報犬として勉強したいので、目録について何でも教えてくれる、ぼくの先生にお話を聞いてきました！



カーネの先生

やあ、カーネ、がんばってますね。感心、感心。それでは、目録規則がどう変わるかというお話の前に、「目録」や「目録規則」とは何かを、まずはお話ししましょう。

「目録」とは、図書館の所蔵資料の中から求める資料を探しだせるよう、資料についての情報を記録したものです。でもずっと昔は、探すためというよりも、大事なものを記録しておく「財産台帳」みたいな位置付けでした。本がとても貴重なものとして扱われていた時代のことで、持ち出されないように本を鎖で書架につないだ図書館もあったそうですよ。



カーネ

ぼくのお散歩のときみたいだね！

でも、本が増えて書庫にしまわれるようになると、利用者には自分の求める本が図書館にあるかどうかわかりません。やがて目録は、図書館の中で資料を探すためのツールとして使われるようになりました。その後も、目録の形は進化しつづけています。もともとは冊子の形をしていたけれど、カード目録の登場のおかげで、新しい資料の記録を追加しやすくなりました。カーネはカードボックスの引き出しに並んでいる目録カードで本を探したことはあるかな？



ないです。でも見たことはあるかも。

やっぱり使ったことはないのですね。コンピュータの普及とともに、目録はデータベースとして広く共有されるようになり、カード目録はほとんど見かけなくなりました。今では、誰でもいつでもどこからでもウェブで目録を検索できるようにもなりましたね。

さて、こうした進化をとげる過程で、目録は次第にひとつの図書館のものだけではなくなくなっていきました。いくつかの図書館で一緒に目録を作成したり、ほかの図書館が作った目録に自分の図書館の所蔵情報を足して使ったりするなど、ひとつの目録をいくつもの図書館で作成して共有するようになっていきました。

こうして目録がどんどん外に開かれていくにつれて、どの目録も同じルールに従って作られている必要が出てきました。そのため、さまざまな状況の変化の中でも、一貫した目録を作成するためのルール「目録規則」がつくられ、目録の「標準化」が進むようになります。図書館では、最初は身近なところから始まり、国内、さらにはほかの国と、共通した目録規則を使用するようになっていきました。たとえば、日本ではNCR（日本目録規則）が作られましたし、英語圏ではAACR2（英米目録規則第2版）、ドイツ語圏ではRAK（ドイツ目録規則）が、標準的な目録規則として使われてきました。

目録規則！



じゃあ、どうして今、目録規則は変わろうとしているの？

いい質問ですね！ここからが本題です。それは、図書館を取り巻く状況が大きく変化しているからです。

たとえば、図書館で扱う資料は昔よりずっとバラエティ豊かになっています。中でも電子書籍や電子ジャーナルなどのデジタル資料は、従来の目録規則ではなかなか目録を作ることが難しく、手ごわい相手です。他方では、図書館以外のさまざまな世界の人たちからも、図書館と目録を共有したいという声が寄せられるようになってきました。

もともと図書館は、コンピュータやウェブが登場するよりもずっと早くから、「情報を探しやすくする仕組み」を、苦勞して作り上げてきました。でも、インターネットの普及による情報環境の変化はあまりに大きくて、気づいたら図書館の方が「遅れた」存在になっていたのです。図書館は、ウェブ上のほかの情報提供サービスに比べて存在感を示せないまま、置き去りにされるのではないか¹？そんな危機感から、図書館界では見直しの機運が高まりました。

「今まで経験則でやってきたけど、そもそも目録って何？利用者のニーズに応えるには、どんな情報が必要なの？」そんな根本的な疑問にまでさかのぼって作ったのが「FRBR」（書誌レコードの機能要件）なのです²。

FRBR っていうのも目録規則なの？

FRBR そのものは目録規則ではないんですよ。利用者が関心を持つ対象（＝「実体」）と実体ごとの「関連」を、データベースの設計で使われる「実体関連分析」の手法でモデル化したもので、「概念モデル」という言い方もします³。

急に難しくなっちゃった…。しっぽを巻いて逃げたいです。

おっと、ごめんね。ここでは、目録を作るときに考え方のベースになるもの、ぐらいいとらえておけば大丈夫。めげずに「目録規則が今どう変わろうとしているか」という最初の疑問にもどりましょう。

はい。がんばります。

英語圏でこれまで従ってきた AACR2 は昔ながらの目録規則で、資料の「そとみ」（冊子、ディスクなどの形態）と「なかみ」（文字、画像などの内容表現の手段）の種類の話がまぜこぜになっていて、現在ちまたにあふれている多様化した資料を扱いづらいという弱点がありました。また、図書館の伝統を長く引きずった規則特有のわかりにくさもあります。たとえば、AACR2 ではいろいろな略語が使われていますが、それはもともと、面積の限られた目録カードにちまちまと書き込むための工夫でした。

そこで登場したのが RDA（Resource Description and Access）です。単なる AACR3（AACR2 の改訂）ではなくて、名前まで一新！伝統的な「Cataloguing（目録）」という言葉がタイトルからはずされたのは、図書館だけでなく幅広い情報コミュニティに目配りしているからです。図書館関係者の「変わらなきゃ！」という危機意識の表れですね。

RDA は FRBR を理論的な柱にしており、いわば FRBR が RDA の背骨です。FRBR で定義された「実体」には著作、表現形、体現形、個別資料、といった概念がありますが、RDA はそれらの「実体」に沿った構成になっています。また、AACR2 の弱点を解消して、もっと利用者にわかりやすい目録となるよう、「そとみ」と「なかみ」の種類をすっきり整理して資料のカテゴリーを的確に表したり、略語を使わないようにしたりする工夫もされています。RDA は何より「利用者の利便性が最上位！」なのです⁴。

RDA?



さらに、RDA では、まとめて記録されていた注記などを、きっちりと要素（エレメント）に分割して記録することになりました。こうすることで、コンピュータはいっそう図書館のデータを利用しやすくなり、ウェブの世界の中でデータ同士を相互に関連づけていくこともたやすくなります。RDA の目指すところを実現するには新たなフォーマットやシステムの開発も求められますが、図書館の無数のデータが意味のあるつながりによってお互いに結ばれた結果、利用者は自分の求める資料を探しだすことも、その資料と関係のある別の資料や情報を見つけたすことも容易にできるようになるのです。

すごいねえ。RDA って、みんなもう使っているの？

2013 年からアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアの国立図書館などで使われていて、そのほかの国でも検討が進んでいます⁵。最大の国際的な書誌ユーティリティ⁶である OCLC にも、RDA に従って作成されたデータが提供されていますよ。

じゃあ、ぼくたち日本でも？

そう、日本でも、RDA に対応した新しい目録規則を作ることを決めました。2013 年からは、日本図書館協会目録委員会と国立国会図書館収集書誌部がいっしょに策定作業に取り組んでいます⁷。新しい NCR は、日本の今までの目録の作り方を取り入れつつも、RDA にきちんと対応することで、世界標準に合わせたものを目指しているんです。

目録規則が変わったら、利用者にはどんな影響があるの？

そうですね。わかりにくい略語がなくなったり、「そとみ」や「なかみ」がわかりやすくなったりといった、小さい部分しか最初は見えないかもしれません。でも、この変化を足がかりにして、ほかの機関とのデータの交換がより柔軟にできるようになって、いろんな分野でデータが利用され、利用者の皆さんにとってさまざまな資料や情報を発見できるチャンスが広がるとうれしいですね。日本で作ったデータも外国で作ったデータもお互いスムーズに使えて、さらに、せっかく作ったデータを図書館だけでなく誰にでも自由に便利に使ってもらえることを目指して、図書館界はがんばっているんですよ。

わかりました！先生、今日はお話ありがとうございました。



ぼくの先生の話はいかがでしたか？ 10 年前に連載していた時から、目録の世界はすごいスピードで変わってきているんだね。ぼくも遅れないように、短い脚でとことこついていくよ。さて、次回は図書館の目録を検索するときに大活躍の「典拠」について、ご紹介する予定です。お楽しみに！

（収集書誌部収集・書誌調整課 津田 深雪）

1 バーバラ B. ティレット「動向レビュー：『RDA』：図書館をセマンティック・ウェブに適したものに」『カレントアウェアネス』No.311, 2012. 3. 20. <<http://current.ndl.go.jp/ca1767>>

2 FRBRについては、次を参照。上田修一、倉田敬子編著『図書館情報学』勁草書房、2013.2. pp.137-139.

3 FRBRは1998年に刊行されたもので、以下の日本語訳があります。和中幹雄、古川肇、永田治樹訳『書誌レコードの機能要件：IFLA書誌レコード機能要件研究グループ最終報告（IFLA目録部会常任委員

会承認）』日本図書館協会、2004.3.

4 RDAは、「パリ原則」に代わる新たな原則である2009年完成の「国際目録原則覚書」（ICP）に基づいています。

5 柴田洋子「ウェブで広がる図書館のメタデータを目指して—RDAとBIBFRAME」『カレントアウェアネス』No.322, 2014. 12. 20. <<http://current.ndl.go.jp/ca1837>>

6 多数の参加機関によるオンライン分担目録作業を目的として形成された組織で、総合目録の公

開やデータベース提供などの機能を持っています。

7 これまでに公開された新しいNCRの条文案は、以下でご覧いただけます。平成25年度書誌調整連絡会議 第1部資料<http://www.ndl.go.jp/jp/data/basic_policy/conference/bib_h25_ndlresume.pdf>平成26年度書誌調整連絡会議 第1部（国立国会図書館報告 条文案）<http://www.ndl.go.jp/jp/data/basic_policy/conference/bib_h26_ndlresume1-2.pdf> 日本図書館協会目録委員会のウェブサイトからもご覧いただけます。

図書館に行かなくても文献を入手できます 国立国会図書館の遠隔複写サービス

図書館に行くことなく図書館の文献を手に入れる方法として、「本のコピーを取り寄せる」方法があり、国立国会図書館では「遠隔複写」の名称でサービスを行っています。

文献提供課複写貸出係は、遠隔複写の申込み受付からコピーの提供までを担当する窓口として、皆様からの申込みに応えています。

遠隔複写サービスの一連の流れは、

- ①どの本のどこのコピーがほしいかを明記して申し込む
 - ②当館ではその箇所を探してコピーを取る
 - ③コピーを受け取り、代金を支払う
- という単純なものですが、実際にコピーをお送りするまでには様々な作業があります。

＜申込みを受け取る＞

いただいた申込書に書かれた内容からは、どのコピーがほしいかが読み取れないこともあります。この場合には、記事のタイトルや概要をもとにご希望の箇所を調べたり、率直にご希望の箇所を電話などで伺います。

＜本を見てご希望の箇所を探し出す＞

実際にご希望の記事が見つかったも、著作権法の規定により図書館ではご希望どおりの箇所を複写できない場合や、本の状態が悪くコピーができないことがあります。その場合、その旨のお知らせを郵便や電子メールで送る作業をします。



また、コピーはできても読めないところがある場合や、申込みの内容と、実際に本に載っている内容が完全には一致せず、コピーをすべき箇所が明確に決められない場合には、電話で相談させていただくこともたびたびです。

遠隔複写サービスをご利用いただいたことのある方には、当館からこのような確認の電話があった方も多いと思います。

遠隔複写サービスでは、原則として「申込みを受け付けてから5開館日で発送」することを目指していますが、当館での確認作業に時間を要し、この目標が達成できていない申込みも一定数ありますので、より早く正確にご希望の箇所を探し当てて、お客様の元にコピーをお送りするよう、これからも努めてまいります。

(文献提供課複写貸出係 複写こーるせんたー)

空襲のあった時代を物語る資料

米国戦略爆撃調査団文書のデジタルコレクションへの追加が完了しました

2015年3月、「米国戦略爆撃調査団文書」(Records of the United States Strategic Bombing Survey) 約27,000件の「国立国会図書館デジタルコレクション」(日本占領関係資料)への追加が完了しました。著作権保護期間中等で館内限定公開となった一部の資料を除き、大部分をインターネット公開しています。(http://dl.ndl.go.jp/#senryo)

デジタルコレクションで閲覧できる

「米国戦略爆撃調査団文書」の概要

米国戦略爆撃調査団(United States Strategic Bombing Survey、以下USSBS)は、航空戦力に対する評価と将来の軍勢力整備計画立案との基礎とするため、第2次世界大戦におけるヨーロッパ戦域、太平洋戦域での戦略爆撃の効果や影響を調査し、全316巻(ヨーロッパ戦域部分208巻、太平洋戦域部分108巻)からなる膨大な最終報告書を作成しました。

その報告書と、報告書の作成過程で収集・作成された記録類がUSSBS文書です。それらの資料は現在、米国国立公文書館が所蔵しています。当館では1991年度および1997年度に、太平洋戦域に関する部分の刊行物・文書・写真をマイクロフィルムに撮影して収集し、憲政資料室で閲覧に供してきました。また、2013年3月以降、マイクロフィルムからデジタル化した画像を順次インターネットで公開してきました(本誌626(2013年5月)号参照)。

USSBS文書が米国国立公文書館へ納められる際に、USSBSの職員が、文書を8部分に分けて目録を作成しました。その分け方によって、「デジタルコレクション」で閲覧できるUSSBS文書をまとめたものが左の一覧です。このほか、目録には含まれていなかった「原爆、太平洋戦域での両軍の軍事作戦、中国共産党に関する日本の報告書」という文書類も閲覧できます。

「太平洋地域調査報告書及び作成用資料」について

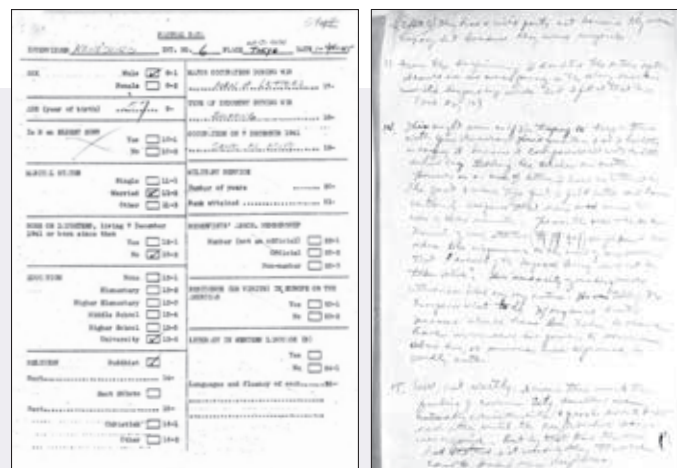
今年デジタルコレクションへの追加が完了した「太平洋地域調査報告書及び作成用資料」は、報告書の最終版やその原稿、作成時に参照された資料などが報告書の巻次ごとに整序されたもので、質量ともに、当館が収集したUSSBS文書の中核をなすものです。その中から2つの報告書とその関連資料について、次ページ(1)(2)でご紹介します。

当館が収集したUSSBS文書の構成

- 1部 ヨーロッパ文書(当館は収集せず)
- 2部 日本文書
 - 太平洋地域調査報告書及び作成用資料
- 3部 ヨーロッパ各種情報(当館は収集せず)
- 4部 ヨーロッパ空襲目標情報(当館は収集せず)
- 5部 ヨーロッパ報告書(当館は収集せず)
- 6部 日本各種情報
 - 各種日本関係情報
- 7部 日本空襲目標情報
 - 空襲目標情報(地域別及び目標別)
 - 空襲目標情報(空襲標的フォルダー)
 - 空襲目標情報・陸海軍合同情報調査
 - 空襲目標情報・地域調査
 - 空襲目標情報(航空写真)
 - 空襲・爆撃データに関する諸統計表
 - 陸軍航空隊統計概報
 - 第20、第21爆撃軍団作戦任務報告書
 - 海軍・海兵隊陸上機戦闘報告書
 - 海軍・海兵隊艦載機戦闘報告書
 - 海軍航空隊作戦報告書
 - 海軍海上戦闘報告書
 - 極東における機雷敷設
 - 空襲損害評価報告書
 - 第20航空軍損害評価カード
- 8部 日本調査団公刊物
 - 日本産業・軍・政治指導者尋問記録
 - 日本航空戦力調査
 - 雑資料

(1) 日本人の士気への戦略的爆撃の効果（報告書第14巻）

爆撃の社会的・心理的影響の調査のために実施された、無作為に選んだ市民に対するインタビュー調査に基づくものです。多数のインタビューから人々の感じ方の傾向を導きだしたもので、関連資料としてインタビューの記録自体が残されています。一般の市民の記録だけでも十分に興味深いものですが、偶然にも小説家・随筆家の内田百閒（本名：内田榮造）もインタビューの対象となっていました（<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8319896>）の34コマ目から44コマ目まで）。百閒は、その体験をもとに「爆撃調査団」という題名の文章を発表しているの、インタビューをした側と受けた側の双方が残した記録を比べることができます¹。



左：インタビュー時の質問チェックシート（34コマ目）。年齢や職業から内田百閒へのインタビュー記録であると推定される。
右：内田百閒インタビュー時の速記録（39コマ目）。基本的には手書きの英文であるが、内田百閒が東条英機について感じていたことを語った際に用いられた「戦陣訓」という言葉は漢字で記されている。

(2) 戦略爆撃の日本の戦時経済への効果（報告書第53巻）

正木千冬によって翻訳され、昭和25年に『日本戦争経済の崩壊』²として刊行されてもいます。報告書の価値については、記者自身が序文で「本書及び附録統計表が日本の太平洋戦争における戦争経済史資料としていかに貴重なものであるかは、自らの手で戦時中の諸記録を破棄してしまったわれわれ日本の経済学徒にとって身にしみて痛感されるところである」と述べています。多様な数値を載せた報告書が貴重なことはもちろん、その裏付けとして集められた統計表や聞き取りの記録などの関連文書も貴重なものです。

日本の塩需給状況についての統計表。それぞれの項目名などに英訳の跡が残っている。
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8819817>（5、6コマ目）

「米国戦略爆撃調査団文書」の語るもの

USSBSが刊行した最終報告書は、早くからその存在を知られ、翻訳されて資料集等の形で刊行されています。また実際に空襲を行った部隊の任務報告書などは、空襲を調査研究する各地の市民団体や地方自治体史の編纂に関わる人たちを中心に利用されてきました。

しかし、USSBS文書には、収集・作成されたものの、報告書には掲載されなかった多数の記録が残されています。その中には、様々

な事情で日本側の記録として残せなかったものが含まれています。そうした「失われた記録」「思いがけず残された記録」が、インターネットでどこからでも見られるようになりました。空襲のあった時代を直接知る人が少なくなる中、改めて当時の様子を探ってみてはいかがでしょうか。

（利用者サービス部政治史料課）

¹ 佐土根由里「発見された「爆撃調査団の内田百閒インタビュー」」（『新潮』第102巻第6号（2005年6月））には、インタビューの翻訳と「爆撃調査団」の文章があわせて紹介されている。

² 日本評論社刊 ＜請求記号 332.1-A461n-M＞

米国戦略爆撃調査団文書の資料概要はリサーチ・ナビでも紹介しています。
<https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/entry/USB.php>

国立国会図書館サーチのこれから

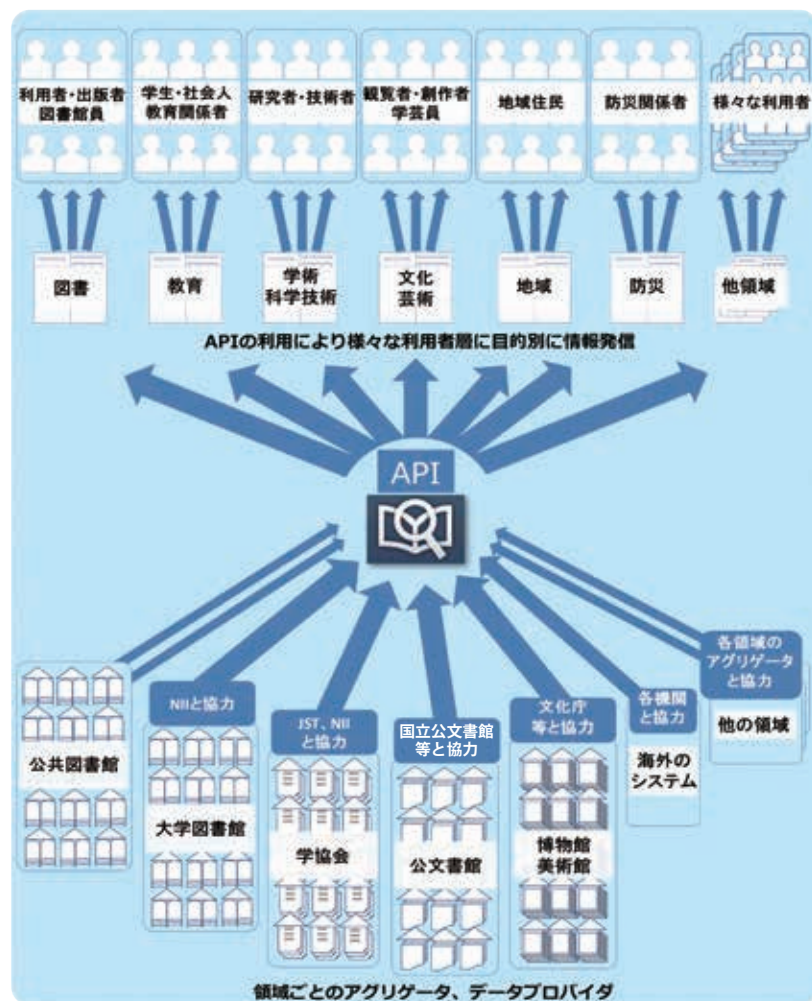
「国立国会図書館サーチ連携拡張に係る実施計画」のご紹介

国立国会図書館では、4月3日に、「国立国会図書館サーチ連携拡張に係る実施計画」¹
(以下、連携拡張実施計画)を公開しました。本稿ではその概要をご紹介します。

連携拡張実施計画策定の背景と目的

国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）は、「当館のデジタルアーカイブにとどまらず、国等の公的機関を中心とした電子の情報資源や情報提供サービスに利用者を適切に案内するもの」²として、当館が継続的に拡充してきた電子図書館サービスのひとつです。平成24年1月の正式公開後、連携先を少しずつ増やして、現在はひとつの検索窓から、100以上の機関・システムが保有する8,000万件を超える情報源にたどりつけるサービスになっています。

NDLサーチの統合検索提供における連携イメージ



このたび公開した連携拡張実施計画は、「今後連携対象とする機関・システム」「今後5年間を目途に実現を目指す連携拡張の規模と長期的な目標」「効率的な連携拡張の方式」を各機関の関係者と共有することにより、今後の連携拡張を円滑に進めていくことを目的としています。

連携拡張実施計画が定める「連携対象」

連携拡張実施計画では、NDLサーチの連携対象を「日本の刊行物、刊行物と同等の内容を有するコンテンツ（一次情報）とそれに関連する二次情報」を広く扱うシステム、または「公的機関、学術研究・団体、図書館、文書館」等がインターネット上で提供するシステムと決めました。

連携拡張実施計画が定める「連携方針」

NDLサーチの連携対象の選択（優先順位）については、コンテンツの内容、標準的な通信規約（API）による連携が可能なこと等、複数の基準から総合的に判断します。また、個別のシステム（データプロバイダ）より、それらを集約した領域ごとの統合検索サービス（アグリゲータ）との連携を優先します。ただし、図書館のシステムとは直接連携することを基本とし、特に、公共図書館のシステムとの連携は最優先で進めます。

これらの方針により、左図のような連携の全体像を実現することを目指しています。

この連携イメージでは、領域ごとのアグリゲータとの連携により、効率的にメタデータを収集することを表現しています（図の下半

分)。そして収集したメタデータを、APIを通じて様々な利用者層に目的別に発信するというプラットフォームとしての役割を表現しています（図の上半分）。

連携拡張実施計画が定める「今後の実施事項」

NDLサーチの連携対象となりうる機関・システムについて、国内の公共図書館、大学図書館、公文書館、博物館・美術館等の領域ごとに、平成26年度時点におけるNDLサーチとの連携状況を踏まえ、実施事項を定めています。主要なものを下の表に示します。

公共図書館および大学図書館の領域については、最終的には全ての機関との連携（総合目録については連携方式のAPIへの切替え）が実現することを目指しています。その他の領域については、各領域を代表する機関・システムとの連携により、効率的に連携拡張することを目指しています。

おわりに

連携拡張実施計画の公開により、連携協力関係についての基本的な考え方をようやく提

示することができました。この計画に基づき、NDLサーチは、集約するメタデータの絶対数と多様性をさらに高めていきます。そして、分野横断的なメタデータ提供のプラットフォームとして、集約したメタデータを様々な層の利用者にお届けしていきます。このような発展は、連携対象機関・システムに対しても、アクセスや利用の増加につながる等のメリットをもたらすと考えています。

NDLサーチ自体は、多数のシステムからメタデータを収集し、それを画面やAPIを通じて利用者に提供する比較的シンプルなシステムです。このシステムが充実したサービスとして結実するためには、各機関との連携協力関係が礎になります。協力関係をより深め、連携イメージを現実のものに近づけていくため、各機関との情報共有や技術的支援を実施するとともに、連携機関間での活発な情報共有等が行われるように、各種イベントを開催していく予定です。

（電子情報部電子情報サービス課）

- 1 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9207570>
- 2 「国立国会図書館電子図書館中期計画2004」平成16年2月策定
<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/dlib/project/plan2004.html>
- 3 Open Archives Initiativeが策定したメタデータ収集のためのAPI。



国立国会図書館サーチ
<http://iss.ndl.go.jp/>

領域ごとの今後の実施事項

領域		実施事項	5年間での達成目標
公共図書館	総合目録	データ提供館との連携方式を、順次 OAI-PMH ³ に切り替え	データ提供館 66 館のうち 6 割弱の 37 館程度について OAI-PMH でのメタデータ授受が実現することを目指す。
	デジタルアーカイブ	API 実装済デジタルアーカイブとの連携 / 現在 API 未実装のデジタルアーカイブとの連携（規模の大きいもの）	全体（54 館）のうち約 9 割弱に当たる 47 館との連携を実現することを目指す。
大学図書館	デジタルアーカイブ		全体（48 大学）のうち約 5 割に当たる 25 大学との連携を実現することを目指す。
	機関リポジトリ		
	総合目録	国立情報学研究所との協力により効率的に連携拡張	
その他の領域		各領域を代表する機関・システムとの連携により効率的に連携を拡張	

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。
このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

アートが絵本と出会うとき 美術のパイオニアたちの試み avant-garde and children

山田志麻子ほか 編 うらわ美術館ほか 刊
c2013 303p 21×22cm <請求記号 KC511-L29>

本書には、「avant-garde and children」という副題がついている。「前衛美術と子どもたち」。一見、結びつき難いように思われる2つの言葉であるが、本書を一読すると、この2つがいかに相性が良いかを思い知らされる。社会に組み込まれず、先入観に囚われることもない子どもの眼差しは、既存概念や伝統から自由であろうとし、世界と直接的に出会おうとした前衛芸術家たちが目指した視線そのものではないだろうか。

本書は、うらわ美術館および下関市立美術館で行われた展覧会の図録であり、前衛芸術家が手がけた絵本が、多数の図版とともに紹介されている。本書に登場するのは、リシツキーやロトチェンコ、マヤコフスキーらロシア・アヴァンギャルドの芸術家たち、ダダの芸術家クルト・シュヴィッターズ、そしてそれらロシアや西欧の影響を受けて活躍した日本の前衛芸術家たちである。美術グループ「マヴォ」を結成した村山知義や柳瀬正夢、絵画・童画だけでなく本の装丁でもたくさんの作品を残した恩地孝四郎、「具体美術協会」を結成した吉原治良を中心に童詩雑誌『きりん』に関わった芸術家たち、「具体」メンバーであり、今でも人気の高い絵本『もこもこ』『もけら もけら』等の作者である元永定正、戦後社会の異形を描いた池田龍雄、現在でも第一線で多彩な活動が続けている大竹伸朗など、そうそう

たるメンバーの作品が紙面を彩っている。

この展覧会を中心テーマは「芸術家たちが作った絵本」であるが、絵本に



限らず、絵画、オブジェ、ポスター、コラージュ、装丁など、絵本以外の様々な作品もあわせて紹介されている点で特徴的である。絵本を作った芸術家たちの手による、他の分野での作品をみることで、彼らが芸術家としてどのような技術や作風をもっていたのか、またその感性がどのように絵本のなかで発揮されていたのかがよく分かる。そして同時に、彼らが子ども向けの本にいかにか真剣に取り組み、他の作品と同じように情熱を持って創作していたかをうかがい知ることができる。ここで気づかされるのは、芸術家たちが絵本を多彩にしたという「アート→絵本」の作用だけでなく、絵本という表現方法を得たことで、前衛芸術家たちがのびのびと作品をつくり、新たなインスピレーションを得ることができていたのではないかという、「絵本→アート」の、いわば逆方向の作用である。アートが絵本と出会うとき、絵本はより多彩なものとなり、アートはより豊かなものとなるのではないだろうか。

アートと絵本の蜜月を回顧すると同時に、今後はどのような前衛的な絵本が生み出されるのかという期待がふくらむ、夢のある一冊だ。

(利用者サービス部図書館資料整備課 山口 紀子)

法規の制定

【告示第1号】国立国会図書館法第二十五条の四第四項に規定する金額等に関する件の一部を改正する件

(平成27年6月9日制定)

オンライン資料の収集に係る補償金のうち記録媒体の購入に要する金額を86円とした。平成27年6月9日から施行された。

この法規による改正後の国立国会図書館法第二十五条の四第四項に規定する金額等に関する件（平成25年国立国会図書館告示第1号）は、国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）>国立国会図書館について>関係法規（<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/laws.html>）に掲載している。

お知らせ

■ 本の万華鏡（第19回） 「白瀬矗、南極へ～ 日本人初の極地探検」



7月21日から、ミニ電子展示会「本の万華鏡」第19回「白瀬矗、南極へ～日本人初の極地探検」の提供を開始しました。

白瀬矗^{しらせのぶ}は、明治時代の終わりに日本人で初めて南極を探検した白瀬隊の隊長です。彼は子どもの頃から極地探検を志し、ノルウェーのアムンセン、英国のスコットと同時期に南極点到達を目指しました。結果として、南極点に到達することはできなかったものの、明治45（1912）年1月28日に南緯80度5分まで到達、探検隊員を全員無事に帰国させるという成果をあげます。その冒険には、当時多くの日本人が注目しました。

しかし、その旅は資金不足、探検隊内でのいざこざ、さらには旅の途中の衣食住に関わる問題等々、決して一筋縄でいくものではありませんでした。そんな知られざる苦難と驚きに満ちた旅を、当館の貴重な資料でご案内します。

第1章では、白瀬矗が南極行きを決めた日を起点に、白瀬隊の南極探検の流れを追いかけます。補章では、白瀬のほかに南極を目指した人々を中心に、当時の白瀬の旅の背景を見ていきます。第2章では、白瀬の生涯を追いつつ、探検家としての白瀬に関わった人々についても紹介します。第3章では、白瀬隊の生活面に着目します。南極探検のために準備した衣類や装備や食料のこと、長い船上生活とシドニーでの待機の日々、出会った動物たちなどについて紹介します。

○URL <http://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/19/>



白瀬矗肖像
電子展示会「近代日本人の肖像」より
<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/281.html?cat=28>



南極大陸で犬ゾリを馳せる白瀬隊
南極探検後援会編『南極記』南極探検後援会、大正2



南緯80度5分地点に立つ白瀬隊
南極探検後援会編『南極記』南極探検後援会、大正2



多田恵一『南極土産』春陽堂、大正1

お知らせ

■ 関西館小展示

(第18回)

「古今東西いきもの絵巻 ーいる、いない、もうい ないー」

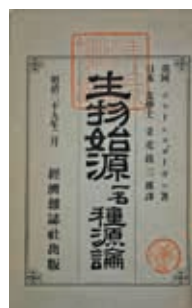
第18回関西館小展示は「古今東西いきもの絵巻ーいる、いない、もういないー」と題して、実在する動物だけでなく、想像上の動物や絶滅種など、多様な切り口で動物について取り上げ、それぞれに関連する資料を展示します。

写真をふんだんに掲載した図鑑から野生動物の多様性を感じ取り、文学作品に描かれた動物の姿に心を惹かれ、かつて地球で活動していた絶滅動物に思いを馳せる。科学的側面からだけでなく、人文学的側面から動物を取り上げた資料も含め、幅広い展示内容となっています。ぜひ関西館にお越しください。

- 開催期間 8月20日(木)～9月15日(火)
(日曜日、国民の祝日を除く)
- 開催時間 10:00～18:00
- 場 所 関西館 地下1階総合閲覧室
- 入 場 無料



フランスの昆虫学者アンリ・ファーブルの代表的著作で、昆虫の生態の記録として名高い。展示資料は大正11(1922)年から大正15(1926)年に刊行された邦訳書。
『昆虫記』
叢文閣, 大正11-15
【請求記号 385-207】



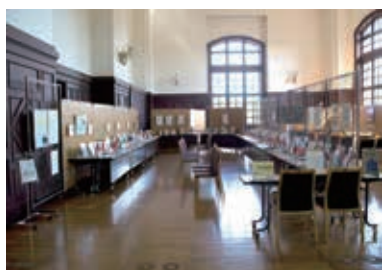
イギリスの自然科学者チャールズ・ダーウィンによる進化の解説書。展示資料は明治29(1896)年刊行の初邦訳書。
『生物始源』
経済雑誌社, 1896
【請求記号 467.5-cD22s3-T】



小説家夏目漱石のデビュー作となる長編小説。展示資料は明治38(1905)年から明治40(1907)年に初めて刊行されたもの。
『吾輩ハ猫デアル』
大倉書店, 明38-40
【請求記号 26-344】

お知らせ

■ 国際子ども図書館展示会 「世界をつなぐ子どもの本— 2014年国際アンデルセン賞・ IBBY オナーリスト図書展」



2012年展示会の様子

国際子ども図書館では、8月4日から「世界をつなぐ子どもの本—2014年国際アンデルセン賞・IBBY（国際児童図書評議会）オナーリスト図書展」を開催します。

この展示会では、2014年の国際アンデルセン賞受賞者のこれまでの作品と、IBBYオナーリスト（優良作品）の推薦作品およびその邦訳書、あわせて約170冊を手にとりご覧いただけます。

入場は無料です。ご来場をお待ちしています。

- 開催期間 8月4日（火）～8月23日（日）
月曜日、8月19日（水）は休館
- 開催時間 9:30～17:00
- 会場 国際子ども図書館 レンガ棟3階 ホール

国際アンデルセン賞は「小さなノーベル賞」ともいわれ、2年に1度、児童書の分野で卓越した業績をあげた現存の作家および画家に贈られます。2014年は上橋菜穂子さんが作家賞を、ホジェル・メロさん（ブラジル）が画家賞を受賞しました。

IBBYオナーリストは、IBBYの各国支部が、自国で出版された児童書の中から、外国に紹介したい作品を選び、隔年で作成する推薦図書リストです。「文学作品」「イラストレーション作品」「翻訳作品」の3部門からなり、2014年は52の国と地域から150作品が選ばれました。日本からは、文学作品部門にまはら三桃さんの『鉄のしぶきがはねる』、イラストレーション作品部門にあべ弘士さんの『新世界へ＝To The New World』、翻訳作品部門に神宮輝夫さん訳の「ランサム・サーガ」シリーズ（改訳）が選ばれています。

○問合せ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 資料情報課 展示係

電話 03（3827）2053（代表）



お知らせ

■ 国際子ども図書館講演会 「＜児童文学史＞をもと めて一展示会「日本の子 どもの文学」の5年間を ふりかえる」

国際子ども図書館の展示会「日本の子どもの文学―国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」では、国際子ども図書館が所蔵する本、絵本や雑誌の中から、明治から現代に至るまでの代表的な児童文学作家・画家の作品を紹介しています。平成23年2月19日から開催してきたこの展示会も、本年10月31日で終了となります。

児童文学作家・評論家の藤田のぼる氏と、本展示会監修者の宮川健郎氏を講師に迎え、展示会を総括する講演会を開催します。講演のあと、講師による対談をおこないます。

入場は無料です。この講演会は、上野の山文化ゾーン連絡協議会主催「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の参加行事です。

- 日 時 9月26日（土） 14:00～16:30（予定）
- 会 場 国際子ども図書館 アーチ棟1階 研修室1
- 演 題 ＜児童文学史＞をもとめて一展示会「日本の子どもの文学」の5年
間をふりかえる
- 講 師 藤田 のぼる 氏（児童文学作家・評論家）
宮川 健郎 氏（武蔵野大学教授、本展示会監修者）
- 対 象 中学生以上（定員100名）
- 申込方法 8月頃、国際子ども図書館のホームページに掲載します。
- 問合せ先 国立国会図書館 国際子ども図書館「9月26日講演会」担当
電話 03（3827）2053（代表）

お知らせ

■ 新刊案内

国立国会図書館の 編集・刊行物



外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第264号 A4 143頁 季刊 1,800円（税別）

発売 日本図書館協会（ISBN 978-4-87582-775-7）

<主要立法（翻訳・解説）>

イギリスにおけるデータ保全及び調査権限法の制定—EUデータ保全指令の無効裁定を踏まえて—

フランスの政治倫理に関する立法—利益相反防止と資産公開—

ドイツにおける難民に関する立法動向—人間の尊厳にふさわしい待遇を目指して—

スウェーデンにおける「ネットワーク系電子出版物」の収集—「電子資料の納本に関する法律」の全面施行—

韓国の両性平等基本法

中国の博物館条例

<主要立法（解説）>

ロシアにおける交通安全政策の動向—飲酒運転規制を中心に—



レファレンス 773号 A4 73頁 月刊 1,000円（税別）発売 日本図書館協会

我が国の新たな開発援助政策—援助をめぐる国際的環境の変化を踏まえて—

法人税をめぐる最近の議論—税率引下げと代替財源を中心に—

米国の外国口座税務コンプライアンス法と我が国の対応



カレントアウェアネス 324号 A4 24頁 季刊 400円（税別）発売 日本図書館協会

ライブラリアンによる Wikipedia Town への支援

ResearchGate - リポジトリ機能を備えた研究者向け SNS -

DataCite：国立図書館×DOI×研究データ

『日本十進分類法』新訂10版の概要

<動向レビュー>

世界のオープンアクセス、オープンサイエンス政策の動向と図書館の役割

芸術資料とアーカイブ／ドキュメンテーション

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03（3523）0812

C O N T E N T S

- 02 <Book of the month - from NDL collections>
The Takuji Ogawa Collection: The father of a Nobel Prize winner and his life as a collector
- 04 Getting ready for the next generation: Renewal of the International Library of Children's Literature
- 14 The construction of the Arch Building: Expansion and development of the International Library of Children's Literature
- 20 Scripts Archives Symposium commemorating the 90th Anniversary of broadcasting: "Scripts Archives taking a new step: Preservation and use for the future"
- 24 What's bibliographic control? Revisited (2) Cataloging rules are evolving
- 27 <Tidbits of information on NDL>
Documents are available without visiting the NDL: Remote copying services at the NDL
- 28 TOPIC
○Materials conveying the age of the air raids: Records of the U.S. Strategic Bombing Survey added to the NDL Digital Collections
○The future of the NDL Search: An introduction to the NDL Search cooperation expansion plan
- 32 <Books not commercially available>
Āto ga ehon to deau toki: Bijutsu no paioniatachi no kokoromi: Avant-Garde and children
- 33 NDL NEWS
○Rules & regulations
- 34 <Announcement>
○Kaleidoscope of Books (19) Nobu Shirase, To the Antarctic: Japan's first polar expedition
○Small exhibition in the Kansai-kan (18) A collection of living creatures from all times and places: real, virtual and extinct creatures
○Exhibition at the International Library of Children's Literature: Children's books link the World - Hans Christian Andersen Award 2014 & IBBY Honour List 2014
○Lecture at the International Library of Children's Literature: The History of Children's Literature: Looking back over the past five years at exhibitions of Japanese children's literature
○Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 27 年 8/9 月号 (No.652/653)

平成 27 年 8 月 1 日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 小寺正一
責任者

印刷所 株式会社 正文社印刷所

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



「上野公園内之景」
小林清親 画 福田熊治良 明治11（1878）
1枚 23.3×35.6cm
〔「清親畫帖」＜請求記号 寄別1-9-2-3＞所収〕
「国立国会図書館デジタルコレクション」でご覧になれます。
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2605147/32>

国立国会図書館月報

平成27年8月1日発行（毎月1回1日発行）
（8/9月号通巻652/653号）